



特定非営利活動法人 鳥の劇場

〒689-0405 鳥取県鳥取市鹿野町鹿野 1812-1

電話・ファックス 0857-84-3268

電子メール info@birdtheatre.org

ウェブサイト www.birdtheatre.org

特定非営利活動法人 鳥の劇場

2020年度 活動報告書



感じる、でもわからない。言葉、言葉。そこに言葉を与えたい。



04	ご挨拶
05	活動報告 01 年間プログラム
15	活動報告 02 鳥の演劇祭13
22	活動報告 03 じゆう劇場
23	障がいのある人との活動
24	活動報告 04 トリジューク
25	活動報告 05 アウトリーチ活動
26	活動報告 06 鳥の劇場以外での上演
27	活動報告 07 その他の活動
28	新型コロナウイルス感染症予防対策
30	[資料1]鳥の劇場2020年度プログラム 観客アンケート集計結果
31	[資料2]鳥の劇場2020年度収支決算
32	報道資料

2020年春の新型コロナ感染拡大状況の中で考えたのは、「とにかく感染者を出さない」こと。「感染者が出たらどうなるんだろう?」という日本の村社会的状況を踏まえての恐れのような気持ちでもあった。例年恒例の5月大型連休公演は、無観客全8回公演ライブ配信とした。客席に観客がいないことの不思議、ライブ配信を見ている人がたくさんいるらしいこと、うまく配信できているかの不安など、初めてづくしの奇妙な感覚で、さびしさもあったが視聴数が伸びていくのを喜んだりする高揚感・楽しさもあった。

この公演は、観客とともに同じ場を過ごす演劇という方法の、唯一無二の強さを確認する機会にもなった。観客の不在がその意味を濃厚に考えさせてくれた。撮影するカメラの台数を増やし、うまく編集することで、映像配信の魅力は格段に増し、演劇を観る人の裾野を広げることにもなる。そのことはポジティブに受け入れつつ、舞台から出る熱や圧力、あふれる奔流のような情報との直接の出会いの場としての観客席、受け身に見えるその場の能動的積極的な役割。2時間ほどの時間を缶詰にされ

て過ごす劇場という場は何なのか。その意味を考えた。より力のある舞台を作りたい、この仕事に関わることでできる幸運と喜びを熱烈に思った。

感染拡大後初めて劇場に観客に入ってもらったのは、9月の鳥の演劇祭での安部公房作「友達」上演だった。2回だけの公演で、席の距離をとった関係で席数も通常より少なかったが、ほぼ満席となり、観客のみなさんの観劇に対する熱い思いを感じることができた。大きな勇気もらった。非常に慣れた場所で感じた新鮮な興奮を今も覚えている。

NPO法人の決算が終わった2021年6月にこのふりかえりの文章を書いている。2020年度も、演劇を中心にすえたアートセンターとしてコロナ禍の中で可能な方法で取り組みを行なった。できなかった事業、縮小した事業もあるが、これだけの活動ができたのは地方の強みが発揮されたからだ。強みは言うまでもない、人が少ないこと。密になりづらい。が、それは当然弱みでもある。縮小していくコミュニティ、強行されそうな東京五輪とコロナ後の緊縮財政、補助金削減。来年以降の課題と想っていたら、2021年の文化庁補助金がかットされた。評価書を見ると採算性や効率性が異様に低く評価されていた。公的な支援として地方、民間への配慮がなさすぎではないか? やり場のない思いを抱えつつ、危機を共有しともに考えてくれる各方面の多くの支援者の皆さんの存在に大きく勇気付けられている。

持続可能な新しい組織や事業展開を現在構想中で、今年一年で何もかもはできないかもしれないが、活動が続ける決意に揺るぎはなく、むしろますます燃えて、引き続きみなさんのご支援をお願い申し上げる次第です。

特定非営利活動法人 鳥の劇場
代表理事 中島諒人



活動報告

01

年間プログラム

現代演劇創作・発信拠点としての鳥の劇場の中心がこの年間プログラムです。演劇を軸にしたアートセンターとして、現代演劇の創作上演だけでなく、演劇に興味を持つ人の拡大や人材養成的視点も持ちながら、本年も「創る」「いっしょにやる」「試みる」「招く」「成長の支援」を5つの柱として活動を展開しました(「招く」は、鳥の劇場運営委員会の主催で、鳥の演劇祭(p.15-21)として実施)。

各種事業を展開することで、多様な人たちの交差点としての劇場の姿を具体化し、来場者数も増加傾向になってきたところですが、本年は新型コロナパンデミックにより、特に「創るプログラム」において、動員減が顕著となりました。

期間
2020年4月～2021年3月
会場
鳥の劇場
実施
年間プログラム来場者数(延べ) 1,901人
上演プログラム
8演目・27回 計1,143人
プレトーク
12回 計148人
アフタートーク
13回 計450人
無料ライブ配信
3演目・12回 視聴回数(12日間計) 7,657回
上演以外
7事業・124回 計160人

創るプログラム

- ▶『《不思議の国のアリスの》帽子屋さんのお茶の会』
- ▶『友達』 ※鳥の演劇祭13にて上演
- ▶『戦争で死ねなかったお父さんのために』

試みるプログラム

- ▶高校演劇もっと盛り上げ事業「つくる高校生」
- ▶劇場で働く人たちを知る

若手演劇人の成長サポート

- ▶若手演劇人の作品向上、社会との関係づくり支援事業

いっしょにやるプログラム

- ▶戯曲講座
- ▶おとなな劇場
- ▶子どものための「小鳥の学校」
- ▶みんながいる場所・鳥の食堂 ※コロナ禍の為、開催せず

いっしょにやるプログラム ×試みるプログラム

- ▶おとこのための作曲入門ワークショップ「好きな詩で創ってみようオリジナルメロディ」

【主催】特定非営利活動法人鳥の劇場
【助成】文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会 文化庁令和2年度第2次補正予算事業「文化芸術活動の継続支援事業」 公益財団法人ごうぎん鳥取文化振興財団 鳥取県アートの灯を守る!とっとりアート支援事業
【後援】鳥取県 鳥取市 鳥取県教育委員会 鳥取市教育委員会 NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会 鳥取大学地域学部附属芸術文化センター 新日本海新聞社 株式会社ふるさと鹿野

創るプログラム

II《不思議の国のアリスの》帽子屋さんのお茶の会

【演出ノートより】

いろんな人とお茶の会をしよう!

別役実のこのテキストは、言葉遊びが多く、ナンセンスなやりとりが横ずれるように展開する不思議でおもしろいメルヘンだ。夢の中のように何でもありで、「森」と呼ばれるその世界は、人間の精神世界の混沌を表しているようだ。しかしと言うべきか、だからと言うべきか、私はこのテキストを存在の不安を抱えた者(帽子屋)の魂の再生の物語と理解して全体を組み立てた。横ずれるばかりにも見える物語だが、実は構築的に積み上げてある。

何かのきっかけで心に傷を負った帽子屋。お茶の会とは、他者との関係構築の場。関係に不安を抱えた者にとって、自分をさらすことなどできない。「名前」や「らしさ」が大事で、無防備な自分と他者がうかつに出会ってしまうえば、それは自分の存在を揺るがし、場合によってはもうい自己が壊れてしまう。だから帽子屋は、お茶の会を求めながら避けようとする。けれど、人の魂はより良きものを本源的に願うから(もちろん本源的に悪へ向かう傾向も同時に持つが)、不安と危険にもかかわらず外部との出会いを求め、成長の糧としようとする。

新型コロナウイルスによるこの状況で、我々は今、他者との出会い=お茶の会ができない状態にある。できない原因が外にあるという意味で、帽子屋と我々はとりあえず違うけれど、必要なことができないという点では同じ。できない私たちにできることはなんだろう。

①みんな、それぞれのお茶の会に向けて準備をしよう。

別役実は、不条理劇を通じて世界を描いた。不条理劇とは、人間の力を超える大きなストレスのもとで右往左往しトンチンカンな振る舞いをする人間を描く。伝染病が世界を覆うこの巨大なストレスの下、あたふたしてしまいがちだけれど、自分を誇張して威張るのではなく、卑屈になるのもなく、「らしさ」を求めて借り物をでっかいあげるのでもなく、自分らしいお茶会=出会いを考えて、その実行のための準備をしておこう。鍵は自分らしさ、少しずつでいいから自分を開くこと。

②お茶の会をやるなら、このさい「変な人」と。

意見の同じ人たちとお茶の会は、SNSなどで十分。変な人って言うに変だが、ヤバい人とか危険な人は、本能的にうまくかき分けてもらって、自分とは異なる趣味や考えの人と関わるのがポイント。本当に困った時に光をもたらしてくれるのは、「変な人」だったって経験はだれしもあるはず。おもしろい「変な人」を探しておこう。



それにしてもコロナだ。未知のウイルスは、容易には駆逐できないから、付き合っていくかねばならない。どのように折り合いをつけられるか。自分や身の回りの人が罹患し重症化しないか。どれほどの期間この抑圧状態が続くのか。この不安定の中、自分の生活のあり方はどのような変化を強いられるのか。劇場の経営は大丈夫か、日本経済はもつのか。いろいろ不安である。そしてさらなる不安。このストレスの中、憎悪や偏見、差別が世界のあちこちで生まれている。団結が必要だが、分断がさらに深まらないか、あるいは、団結の必要が権力の集中や専制政治を肯定し強化しないか。不安は湧きだす。

そのような状況の中で、外国も含めて多くの演劇人とメッセージやりとりし、励まし合っている。世界に暮らすそれぞれがそれぞれの場所で希望の光となり、他の光を支える者ともなる。そういう相互的・互惠的ネットワークの結節点の一つとして、この場所が機能できることをうれしく思う。

なんとしても、この困難を乗り越えなければならない。ライブ配信などを通じて、新しい人と出会い、危機にある同志とも連帯し、価値発信の新しい方法の模索をしなければならない。

今回の上演をライブ配信することができたのは、鳥取県による柔軟で迅速な支援があったおかげである。深く感謝申し上げたい。

演出家／鳥の劇場芸術監督 中島諒人

■作／別役実
■演出／中島諒人
■出演／帽子屋：大川潤子 チシャ猫：齊藤頼陽 三月兎：後藤詩織 アリス：安田茉耶 通訳：三輪冬子 使者：中垣直久 公爵夫人：高橋等 市長：村上厚二 魔法使い：赤羽三郎 眠りねずみ：中川玲奈
■スタッフ／舞台美術：中島諒人・中垣直久 舞台監督：岩崎健一郎[NIKEステージワークス] 照明：生田正 音響：原伸弘[オハラ企画] 大道具製作：中島諒人・赤羽三郎・中垣直久 小道具製作：中垣直久 菓子製作：浜田連珠・齊藤頼陽 衣装デザイン・製作：Ki.Yi 衣装補助：安田茉耶 英語台本翻訳：増川智子 映像配信：m&m.co 制作：鳥の劇場
■劇中曲／「帽子屋さんの子守歌」作曲：武中淳彦 演奏：武中淳彦・西尾悦子・松本智彦 「スポーツと気晴らし」「官僚的なソナチネ」「6つの小品より1番」作曲：エリック・サティ 演奏：西尾悦子
■使用戯曲／《不思議の国のアリスの》帽子屋さんのお茶の会 別役実「おさかなの手紙 別役実童話集」(三一書房、1984)に収録
■使用楽曲／「Limelight」[Maiden Voyage] 演奏者：絵里 © 3361*BLACK

【お客様の声】

- YouTube で劇を見るというのが新鮮でした。鹿野から遠い地域でも気軽に見れ、地元の友人にも勧めやすかったです。
- 初夏の日差しが差し込む部屋で、寝そべて寛いで観た。元気が出ました。
- 鳥の劇場の生配信。複数台のカメラのスイッチングと、カメラを動かして人の手触りがある感じが好きでした。映像作品や定点カメラとは違う印象で、キッチリしてないのが生っぽさをあげてる。

II 友達

新作

【演出ノートより】

都市生活を謳歌する結婚間近のエリート商社マン。彼のもとに謎の家族が現れる。他者との関わりを嫌うその青年を「病氣」と断じ、「友達」として包み込みことで病を治すと彼らは言う。男と家族の衝突は、両者それぞれによって立つ人間観、社会観を際立たせ、ぶつかり合いは激しさを増す。それは正確にはぶつかり合いと言うよりは、家族による強奪なのだが、青年のタフさ、したたかさがドラマを生み、家族の側にもさざ波を立てながら、最後は決定的な破断へと展開する。

安部公房のこのテキストは、一見すると日本的集団主義のプロテスクさや非論理的論理を描いているように見える。が、それだけなのか。支配力を持つ集団の力と個人の自由の関係として捉えられないか。力を持つ集団は突き詰めると何を成員に求めるか。集団の本性とは何か。一方、それに徹底的に抗して一人で生きることは本当にできるのか。そしてその時その人間はどのような姿を我々に見せるか。これらの探求として、この上演を練った。

第二次大戦後の世界の中で、今ほど、支配集団の巨大化と、それを前にしての一人ひとりの無力さが、絶望的対比を示す時代はなかったのではないか。人と大組織の関係を取り持ったさまざまな中小組織が破壊され、個人が国家や企業という巨大組織に徒手空拳で向き合わなければならなくなった。それは格差となり孤独となり、存在の不安となり、それが反転するようにポピュリズムとなって国家をさらに強化している。情報を独占し欲望を操作する巨大IT企業が存在も無限に力を増している。伝染病の世界的流行は、個人の生命・身体への国家の直接の介入を正当化し、権力への期待はますます高まる。巨大な国家、企業への隷従の時代が到来することは不可避に思える。隷従、さもなくば生きる場所がない。ネット

期間
9月26日(土)・27日(日) ※「鳥の演劇祭13」のプログラムの一環として上演
実施
2日間 プログラム来場者数(延べ)312人
上演
2回 計207人
アフタートーク
1回 105人
無料ライブ配信
2回 視聴回数(2日間計)396回

【お客様の声】

- 演技の迫力に強く圧倒されました。都会でなくとも一人で気ままに生きる事を選ぶ自分を主人公と投影し、感慨深かったです。私ごとですが、いつもなら一人でふらっと演劇を観に行くところ今回は両親を誘い家族で行きました。行きの車内では黙っていた父が、帰りの車内では始終、演劇の感想などを話していて、もともと演劇が好きでよく行っていたそうで大変喜んでいました。家族が楽しんでいたことが何より嬉しかったです。このような機会を本当にありがとうございました。これからも楽しみにしています。
- 迫真の演技に、パワーを貰いました。日常で見落としやすい、大切な事

- 演劇を映像で見るとどんな感じなんだろうと不安に思っている部分もありましたが、肉眼で見るとより俳優を近くで見ることができ、迫力満点でした。
- 私はお芝居が好きなのですが、最近は家から出ることがほとんどなく、観劇をしに行きたくてもコロナウィルスの影響で公演中止や延期の措置がとられる中、今回このような取り組みをされた事に関してすごく感謝しています。



による相互監視、私刑のような書き込み、「自衛警察」などは、その不条理な暴圧への憂さ晴らしあるいは積極的適応か。

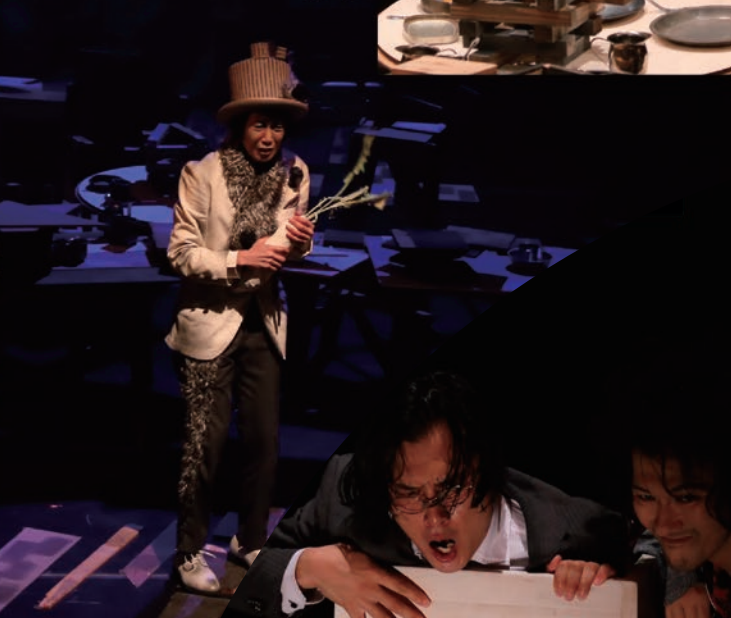
あきらめない青年の姿に、アルフォンス・ドーデの「スガンさんのヤギ」を思った。自由を夢見るヤギ。狼のいる野に出て、狼を前にしても家畜小屋に戻らず戦い、最後は食われた。どうせ私たちは負けるのだ。けれど隷従はしたくない。最後まで抵抗したい、一握りでいいから自由を持ち続けたい。

演出家／鳥の劇場芸術監督 中島諒人

■原作／安部公房「友達」(新潮文庫「友達・棒になった男」所収)
■演出／中島諒人
■出演／男：中垣直久 父：高橋等 母：後藤詩織 祖母：安田茉耶 長男：山本芳郎[劇団山の事事情社] 長女：大川潤子 次男：齊藤頼陽 次女：中川玲奈 警察官・ライター：ホリユウキ[DULL-COLORED POP] 婚約者：斎藤友香莉 管理人：赤羽三郎
■スタッフ／舞台監督：中井尋央[ステージワークURAK] 音響：原伸弘[オハラ企画] 照明プラン：生田正 照明オペレーター：三枝淳 照明補助：佐藤佑磨 舞台美術：Jean-François Guillon 衣装：安田茉耶 大道具製作：中井尋央[ステージワークURAK]・嶋崎陽 フランス語通訳：平野暁人 英語字幕作成：増川智子 字幕操作：浜田連珠 制作：鳥の劇場
■劇中歌／「友達のアリス」作曲：猪俣猛 「街には人がのフルーツ」作曲：中川玲奈・武中淳彦 編曲：武中淳彦・原伸弘[オハラ企画] 演奏：松本智彦・武中淳彦

を、じっくり考えながら帰路につきました。時間をやりくりして行った甲斐がありました。

- ADHDとASDをもつ友人を思い出しました。私は彼の「友達」です。鳥の劇場はいつも、真剣を喉に突きつけて来ようです。素晴らしい舞台を、ありがとうございました。
- 秀逸でした。個人対組織的というよりは勝手な理念や信念の押しつけにじりじりと妥協させられていく状況に恐怖を覚えました。荒唐無稽に見えて現実に生じている状況だと思います。



《不思議の国のアリスの》
帽子屋さんのお茶の会



友達

戦争で死ねなかった
お父さんのために

戦争で死ねなかったお父さんのために

【演出ノートより】

この上演は、昭和50年くらいに東京あたりの大学の演劇部が部室の中で読み合わせをするという劇中劇の形をとっている。こうしたのには理由がある。この戯曲は1971年ごろに発表され、東京・六本木の小劇場で初演された。若者が彼らの親世代の戦争体験を冷笑的に見つめる形で進むこの作品は、当時の大学生を中心とした若者世代が演じ／観るといういわば閉じられた場の中で生まれた。その特殊な閉鎖性を意識することが、この戯曲を今味うためには必要なことだと思う。

もう一つ意識したのは、笑い。若者たちは大笑いしながらこの上演を観た。下品だったり不道徳とも思える台詞の洪水に観客は笑いで応えた。一般社会では言うてはいけないことを大胆に誇張して語ることから生まれる「笑い」が力となって、つかの芝居はこの後に続く「熱海殺人事件」などを通じて多くの観客を獲得していく。その初期の客席の様子を想像してもらえるよう、基本的にいつも誰かが演劇の出来事を観ていることにした。

それにしても、なぜ戦争をネタにして笑う必要があったのだろう。「戦争は大変だった、お前たちはどんなにお気楽な世界に住んでいるか、そのことに感謝せよ」と説教する親への反発はわかる。しかし、「天皇陛下万歳」というセリフで終わり、存在しない満州に出兵するというほとんどタブーのような物語が、なぜ若者の笑いを呼ぶことができたのだろう。満州はギャグの細部（おまけ）に過ぎず、他のところでみんな盛り上がったのだという考えもあるかもしれない。けれどそんなに単純なことだったのだろうか。笑い転げる若者たちは、奇怪な物語のむこうの何かに無意識のうちに共感したのではないか。消費の時代を迎えようとする戦後30年の社会で、全く姿を消したかに見える戦争は何らかの形で社会に圧力を与え続けていたのではないか。そのあたりのことがどうにも気になっている。そしてそのあたりに、現代とこの芝居の接点があると見立てている。

演出家／鳥の劇場芸術監督 中島諒人



期間
2021年2月20日(土)～23日(火・祝)・25日(木)～28日(日)
実施
8日間 プログラム来場者数(延べ)751人
上演
8回 計396人
プレトーク
12回 計148人
アフタートーク
8回 計207人
無料ライブ配信
2回 視聴回数(2日間計)306回

期間中毎日プレトークを第一部、第二部と2回実施し、作品の背景や上演の狙いを観客の皆様丁寧に届けることを心がけました。また毎上演後実施したアフタートークでは、参加の皆様それぞれが感じたことや考えたことを丁寧に語ってくださり、濃密な時間となりました。

2月21日(日)スペシャルアフタートーク 「異分野の人と話す演劇のこと、コミュニティのこれから」

ファシリテーター：中島諒人(演出家)【鳥の劇場】
ゲスト：塚本由晴(建築家)【アトリエ・ワン】

【お客様の声】

- 時間を作ることができたので、初めて来ることができました。期待以上の満足が得られました。内容も大変に考えさせられるもので、つかこうへいさんの原作もさることながら、皆さんの演技力も素晴らしかったです。折しも「あいちトリエンナーレ」などの問題もあり、芸術の担うべき役割のようなものを再考させられる良い機会だったと思います。テーマの重さを、多様さを、これから少し、ゆっくり反芻してみたいと思います。
- 劇中劇にすることで、段々練習から気持ちの入ったお芝居になっていくことでコントラストが生まれて「戦争で」の内容が際立っていくのかなと。若いつかこうへいに馴染みのない世代には特に。それを見せる過程で、役者さんが中身に没頭していく様子が流石だと思いました。中島さんは、ご自分が内容を咀嚼して行くうちに生まれた疑問や気持ちを演劇部

- 作／つかこうへい
- 構成・演出／中島諒人
- 出演／部長(岡山八太郎)：齊藤頼陽 副部長(山崎署長)：村上厚二 りな(女学生・兵隊・ラバウル島の娘・甲)：中川玲奈 しほ(女学生・兵隊・馬賊の娘・寒太郎)：後藤詩織 かきもと(熊田局長)：中垣直久 まな(女学生・兵隊・香港の娘・乙)：安田茉耶 守衛：高橋等
- スタッフ／舞台美術：中島諒人 舞台監督：大野英寿 照明デザイン：大迫浩二 照明操作：久松夕香 音響：原伸弘【オハラ企画】 大道具製作：赤羽三郎・大野英寿 衣装：安田茉耶 英語字幕翻訳：増川智子 字幕製作・操作：増川智子 ライブ配信統括：服部かつゆき ライブ配信：生田正 三輪冬子 制作：鳥の劇場



- の大学生を使って表した、また共感と本編への理解を得ようとしたのかな?アフタートークで、中島さんの「キャストに1人共感できる常識人が必要」という言葉はとても腑に落ちました。
- 義務教育に、幸せに生きる教科があっていいんじゃないかな?それが演劇とか。考える、感じる時間、場所を有難うございました。
- とても素晴らしい公演を有難うございました。観た瞬間の「面白い!」だけではなく、終わったあと考えさせられることがたくさんあって余韻のある作品だと感じました。また、コロナ禍で対面で人と交わる機会が減っている中で、久しぶりに生身の人間のエネルギーを感じて「あ、生きてるな」と思えた気がします。今後もぜひ鳥の劇場には残っていただきたいです。

いっしょにやるプログラム

戯曲の講座 名作を通じて「今」と出会う



【参加者の声】

「不思議の国のアリスの帽子屋さんのお茶の会」

- いつもながら深く深く読み解く解説で、色んな発見があって楽しかったです。また参加したいと思います。
- とても楽しかったです。声を出し、考えて。深い内容を、こんなに可愛らしい登場人物たちで、品よく創作される別役実さんはすごい方なのですね。
- じっくり読めて、いろいろな見方を聞けて良かったです。コロナ中、人としゃべる、人と会うことの良さをひしひしと感じました。

「棒になった男」

- 中島さんの解説がとてもわかり易く、とても楽しい時間でした。どんな内容なのかわからず参加しました。(講義的なものかと思っていた。)初めは戸惑いでしたが、しっかり楽しめました。

おとなな劇場

期間	実施
12月5日(土)～2021年3月28日(日)	12日間 参加者数9人
鳥の劇場の俳優のナビゲートで、65歳以上の“おとな”の方々がお芝居を創っていくプロジェクトです。 まだまだ元気なお年寄りに生きがいとしての活躍の場を提供し、自己有用感を持ってもらう。観客に歳を重ねることの意義深さ、魅力を感じてもらう。一般の人が舞台上で輝いている姿を観てもらうことで、観客に舞台芸術の持つ力を感じてもらう。これが本事業の目的です。	

リーディング上演 『怪談 牡丹灯籠』 2021年3月27日(土)・28日(日) 上演2回 来場者数計61人

【参加者の声】

- このたび初めて演じることに挑戦し、今までサラッと流し見していたドラマ、映画、演劇等を、役になりきって見るようになりました。今までと見る視点が変わったことによりおもしろみがわかるようになりました。
- リーディングそのものをもっと知り、深めていきたいと思います。仲間と共につくりあげていくのはとても楽しいです。
- 人との出会いって本当に貴重だと思いました。
- 芝居作りの工程はあんな具合なのか…と興味深かった。なんにしてもとにかく話し合うことなんだなぁと思いました。
- 一人一人の人物がどんな人柄なのかを考えて創り上げていくところが楽しかったです。
- 朗読は、役柄を確かに意識して読むということを知りました。また、登

実施	講師
3回 参加者数計38人	中島諒人
第一回	
別役実「不思議の国のアリスの帽子屋さんのお茶の会」 6月26日(金) 参加者数12人 会場：ギャラリー鳥たちのいえ	
第二回	
安部公房「棒になった男」 2021年2月20日(土) 参加者数7人 会場：鳥の劇場	
第三回	
つかこうへい「熱海殺人事件」 2021年2月27日(土) 参加者数19人 会場：鳥の劇場	

- とてもおもしろかった。戯曲を声を出して読むのは初めてだったので新鮮だったし、参加者の感想も様々でなるほどでした。
- 「熱海殺人事件」
- 作品そのものもコミカルなシーンが多くておもしろかったが、当時の時代背景を知った上で見たため、考えさせられる部分があり、とても興味深かった。
- 単純に楽しむことができました。(わかり易い解説のおかげです。)戯曲を読み解くという新鮮さを味わえました。若い方々と一緒に時間を過ごすことができたことも良かったです。
- 物語の解釈だけでなく、作者の意図、個人という面に着目することの必要性がわかりました。面白かったです!

期間	実施
12月5日(土)～2021年3月28日(日)	12日間 参加者数9人
本年度は、昨年度の参加者のご友人や、昨年度の上演を観た新規の参加者4名が新たに加わりました。 稽古では、参加者自らが作品の構成に関する意見を述べたり、他の参加者に対してアドバイスを送るなど、作品を自分たちの手でより良くしようという意思を感じる場面が多々ありました。リーディング上演は参加者の個性が醸すチャームな雰囲気溢れ、観ている我々に歳を重ねることの素晴らしさを感じさせるものでした。また、リーディング上演の実施後、観客に賞賛の言葉をかけられ、顔をほころばせながら喜んでいる参加者の姿に、このプロジェクトを継続していく意義を感じました。	

- 原作／三遊亭円朝
- 脚本・演出／齊藤頼陽
- 出演／足立雅子 大西明美 金田由子 中尾知子 松田洋子 丸瀬久美子 村上恵子 山本英子
- スタッフ／演出助手：高橋等 音響：原伸之【オハラ企画】 照明：伊中昌宏 渡部竜巳【オハラ企画】 衣装サポート：安田茉耶 着付け：湯本和子

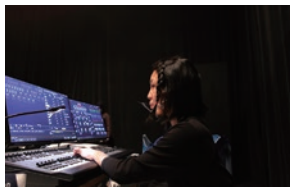
- 場人物一人一人のひととなりをしっかりとつむむことや、場面での人と人との関係性、精神的距離感、物理的距離感を考えて強弱をつけるということを学びました。教わったことを意識して文章を読んでいると、ここでスイッチが入るとか、文字にはない言葉を加えてみようとかが少しずつみえてきました。
- ナレーションは淡々と読めばいいのかなと考えていたが、その都度わかりやすさというか、メリハリを効かせなくてはならないと考えるに至った。
- どこもかしこも大変だった。短い言葉をどれだけ印象付けられるか。最後の決め台詞が良かったという人がいてとても嬉しかった。
- もっとたくさんの方が参加できれば、時間を短くして作品を二つにするとか幅が広がっていけばと。やはりどこか笑いのある作品がいいですね。

Ⅱ 子どものための「小鳥の学校」



■監修／中島諒人
■サポート／中川玲奈 後藤詩織 寛洋子
■講師／Yoo Taehoon (パフォーマー) 大岡淳 (劇作家)
■指導・補助／作曲・楽譜作成・演奏指導：武中淳彦 衣装：安田茉耶
演技：高橋等 大川潤子 中垣直久 舞台：中島諒人 通訳：田川智子
■実施内容
6月27 (土)＝【オリエンテーション】※感染症拡大防止のため、分散集合。
7月＝【語りと歌】(Yoo Taehoonさん) 1人2日間ずつ選んで分散来場、または家からオンライン。
9月21 (月祝) 22 (火祝)＝【ことは】(大岡淳さん) 初めて全員集合し、台本づくりや演劇ワークショップ。

発表公演 『人魚姫』 2021年3月20日(土・祝)・21日(日) 上演2回 来場者数計242人



■原作／寺山修司
■構成・演出／小鳥の学校受講生と中島諒人
■出演／小鳥の学校受講生：泉晶 岩本紗幸 植田菜花 宇山実桜 亀井彩加 木島寧玖 佐藤瑠海 高橋鳴 種原大悟 田村綾梨 永川菜来 中山楓 西川喜八 橋本雄太 東方すみれ 福田涼華 安田柑奈 山田健太郎 山根小夏
■スタッフ／
衣装チーム：中山楓 高橋鳴 田村綾梨 植田菜花 宇山実桜 岩本紗幸 東方すみれ
舞台チーム：西川喜八 種原大悟 永川菜来 山根小夏 亀井彩加 佐藤瑠海 安田柑奈 福田涼華
音楽チーム：山田健太郎 木島寧玖 橋本雄太 泉晶
照明チーム：宇山実桜 田村綾梨 福田涼華
サポート：安田茉耶 (メイク) 原伸弘 (音響) 生田正 (照明) 齊藤頼陽・中垣直久 (舞台) 三輪冬子・表峰七登 (映像記録) 武中淳彦 (編曲)

【協力】小鳥の学校保護者のみなさん 卒業生のみなさん
鹿野町総合支所 鹿野町中央公民館 オハラ企画

【参加者の声】

- 小鳥の学校が初めてで緊張したけど、前からいる人とかが優しく接してくれて活動がしやすかったです。
- 声が出ないのが課題で、でも本番ではっきり大きな声で台詞を言ったりすることができてすごうれしかったです。
- 演劇をするのは初めてで不安なところもあったけど、経験者の皆さんが優しく教えてくださって、わかりやすくしかも楽しく演じることができました。
- 小鳥の学校に入るまでは、大きな声を出すのがちょっと苦手で、小鳥の学校に入ってからはお腹から声を出すことができるようになりました。本当に毎回楽しくって、友達もたくさんできて、良かったです。
- 劇って難しいイメージがあったんですけど、実際に役を演じてみて、役をやったことの達成感も味わえたり、すごい楽しいなと思いました。

- 去年は上の学年の人を見て、私は今どうすればいいかっていうことを考えて行動していたけど、今年は2年目だし新しい人も多いので、自分が前に出なきゃという気持ちで、みんなをまとめようって考えて、積極的にみんなに話しかけたりすることができて、うれしかったです。
- 1回目の時は教えてもらう立場だったけど、今回2回目なので年下の子とかもいて、私が教える立場に当たったので、お手本になる行動をすることと、あと今回改めて演劇をすることの楽しさを実感できました。
- 小鳥の学校に入るまでは、周りの人とかが行動してから自分も行動してたんですけど、自分から行動できるようになりました。
- 今年が3年目になるんですけど、今年初めて自分の個性を出せたなと思いました。

Ⅱ みんながいる場所・鳥の食堂

～劇場で楽しく過ごそう! 夏やすみの「こどものいちにち。」

日程
8月1日(土) 会場:鳥の劇場
※けたかくるりこども食堂との共催で行う予定でしたが、
コロナ感染拡大予防の為、中止としました。

試みるプログラム

Ⅱ 高校演劇もっと盛り上げ事業「つくる高校生」

演劇づくりを先生からの指示によってではなく、自分たちの考えや審美眼に基づいて、しっかりコミュニケーションしながらやってもらいたい、というのが本事業の目的です。本年度は作品創りの基礎力向上を目指し、二つの集中講座を開催しました。芝居作りの基礎は読解にあるとし、まずは台本の読み解き、その面白さを見る人にどのように届けるかを考えました。また、『DOLL』の上演に向けて、鳥取敬愛高等学校演劇部が作品制作し、発表公演を行いました。如月小春の「DOLL」は、高校生の生活を題材としつつ、現代社会の中での彼らの苦しみや描かれており、身近にわかることとちょっと頭を使って考えることのバランスがちょうどいい作品。テキストを丁寧に読み、一つの解釈を押し付けるのではなく、一人一人の考えの違いを大事にしながら全体を理解し、舞台セットについてはインターネットを使いながら世界の劇場の創作の写真を、音楽や照明についても、それによってどんな「意味」が生まれるかを考えながら場面を作っていくことを知ってもらいました。まとめの創作の発表には、いろいろな高校の高校生や中学生も集まって、演劇を通じた良い交流の場となりました。



◆台本読解の講座

期間 講師
8月4日(火)・12日(水)・13日(木) 中島諒人
実施
3日間 参加者数16人 会場：鳥取市民会館

◆舞台美術・照明・音響の講座

期間 講師
12月12日(土)・13日(日) 中島諒人 原伸弘(音響) 生田正(照明)
実施
2日間 参加者数18人 会場：鳥の劇場

【「舞台美術・照明・音響の講座」参加者の声】

- 音響は主人公の感情や雰囲気表現するのに適していて、どこで音を入れてどこのタイミングで音を切れればいいのか、そして音を入れるか入れないかで物語の雰囲気がガラッと変わるのが楽しかった。
- 個人的には自分自身で決めた舞台美術を発表するところが印象に残っています。
- 音楽をセリフの前で止めることによってそのセリフが浮き出る効果を実感できてすごいなと思いました。
- 私は作り込みのすごい劇もいいけれど、抽象劇で、みている人が感じ取って想像できる劇が好きだと感じました。
- 一日目の講座では、色々な舞台の画像を見て、舞台美術について初めて考えることができました。また絵に描いてみたことで、色々なことに気付きました。

Ⅱ 劇場で働く人たちを知る

～劇場で楽しく過ごそう! 夏やすみの「こどものいちにち。」

実施
8月1日(土) 1日・2回(午前の部・午後の部)
参加者数計14人 会場：鳥の劇場

劇場ならではの「職場体験」ができる本事業は2020年度で4回目の実施となります。本年度は午前・午後と2回に分け、同一内容で実施しました。

参加者は体験したい職種を、俳優・音響・舞台監督[道具]・制作の中から選択。参加者全員での軽いアイスブレイクを実施した後、「小さいお芝居を創って上演する」を最終目標としてそれぞれの職種に分かれて体験開始。



俳優担当は簡単なセリフを覚えての演技、音響担当は演技に合わせ機器を操作して音を出すこと、制作担当は劇場内にいる人たちへの告知(宣伝)、入場時の観客誘導、舞台監督担当は開演時の確認、お芝居の中での小道具の操作をそれぞれ確認・練習、そして最後に、実際に観客に向けて上演してみようという内容です。保護者にも観客として参加することを促し、子どもの体験をより近いものとして感じていただきました。また、参加の子ども達も実際に上演するところまで体験したことで、達成感や充実感を感じていた様子。自分が体験した以外の職種にも興味を持つ子どももあり、より深く劇場での仕事に興味を持てもらうことができました。

【参加者の声】

- 楽しかったです。特にポスターをはったり、チケットをくばったりすることがおもしろかったです。(「制作」体験：小学6年生)
- 道具という仕事を何をするかを教えてもらいながら考えてよかったです。劇の場所をかえたり、本番を成功させるためにいろんなことをするとわかりました。楽しかったです。(「道具」体験：中学2年生)
- 音響にも興味があります。(「俳優」体験：小学4年生)
- いっしょにげきができてよかった。はいゆう役の子が、しっかりとえんぎを大きくしてくれて音きようが上手くできた。とても楽しかった。(「音響」体験：小学5年生)

【保護者・お客様の声】

- 物語が好きな娘に小さな頃から多くのものを見る環境を用意してきました。演じることには興味はなさそうですが、ナレーションや物語作りが好きなようで、特に段取り等に強い部分があり、自分も演劇に関われると知るきっかけになったと思います。
- 貴重な体験、ありがとうございました。小1の娘の晴れ舞台も見ることができました。人見知りな2人ですが、最後はイキイキ過ごしていたように思います！
- 子どもたちの活躍する姿が良かったです。このような企画をして頂いて親として本当にありがたいです。
- 人と人とのつながり、バトンをつなぐことで素敵な作品がつくられていくということを改めて実感として感じました。

いっしょにやるプログラム×試みるプログラム

|| おとこのための作曲入門ワークショップ「好きな詩で創ってみようオリジナルメロディ」

楽器のレッスンなどの音楽教室はいろいろありますが、作曲について学べる場はありません。

音楽についての基本的な説明から始まって、3回の講座の中で自分が用意した言葉に曲をつけるところまでをもって行きます。参加者を男性に限定することで、みなさん恥ずかしがることなく没頭して創作に取り組んでもらうことができました。

全6期 午前・午後12コース(1コース3日セット)

- 第1期午前コース： 6月12日(金)・19日(金)・26日(金) 実施せず
第1期夜間コース： 6月12日(金)・19日(金)・26日(金) 参加者数1人
第2期午前コース： 7月10日(金)・17日(金)・24日(金) 参加者数1人
第2期夜間コース： 7月10日(金)・17日(金)・24日(金) 実施せず
第3期午前コース： 8月21日(金)・28日(金)・9月4日(金) 参加者数1人
第3期夜間コース： 8月21日(金)・28日(金)・9月4日(金) 参加者数3人
第4期午前コース： 12月4日(金)・11日(金)・18日(金) 実施せず
第4期夜間コース： 12月4日(金)・11日(金)・18日(金) 実施せず
第5期午前コース： 2021年1月8日(金)・15日(金)・22日(金) 実施せず
第5期夜間コース： 2021年1月8日(金)・15日(金)・22日(金) 実施せず
第6期午前コース： 3月5日(金)・12日(金)・26日(金) 実施せず
第6期夜間コース： 3月5日(金)・12日(金)・26日(金) 参加者数1人

実施
15日(5コース) 参加者数計7人 会場：ギャラリー鳥たちのいえ
講師
音楽家・武中淳彦



【参加者の声】

- 3つの曲の比較が面白かった。ざっくばらんな答えがたくさんあって楽しかった。
- 楽しく受講できた。音読の効果は忘れていた。見方が再確認できた。
- 曲づくりが楽しかったので家でも作ってしまいました。もっとこういう教室、ワークショップがあればいいと思いました。
- 3人の合作はおもしろかった。自分では出てこないフレーズが良い。
- 3人がそれぞれ個性のあるメロディーで、自分に無いものを感じられて良かった。これを良い機会として始めていきたい。ありがとうございました。

若手演劇人の成長サポート

|| 若手演劇人の作品向上、社会との関係づくり支援事業

前期は千葉県松戸市を拠点に活動する劇団「theater apartment complex libido:」を招き、作品の創作・試演を行いました。感染症対策に気を配り、滞在制作ではまず鳥取市内で2週間の隔離を行いながら稽古場を借りて稽古をするなどの対策をとり、その後に鳥の劇場での稽古を開始しました。本年度はコロナの状況を逆手に取り野外劇を創作したことで、通常、劇場ではできないような演出等によって若手の劇団の創作力を刺激することができました。さらに鳥の演劇祭13ではブラッシュアップされた作品の上演を行いました。

後期は、鳥の劇場の作品に出演する若手俳優の中から研修生を選抜して、鳥の演劇祭期間中に研修と運営に関する講座を開催しました。研修では演劇祭スタッフとして携わることでコロナ禍での演劇祭の運営方法について学び、加えて、鳥の劇場の事業運営・劇場運営・地域との連携についての講座を設けて、地域に根ざした演劇活動を続けるためのノウハウを学んでもらいました。



【前期：作品の滞在制作・試演・公演】

期間
6月28日(日)～7月20日(月)・9月19日(土)・20日(日)
招聘
theater apartment complex libido: 10名
実施

試演 野外劇「libido: AESOP 0.5」

7月19日(日) 上演1回 来場者数79人

公演 「libido: AESOP 0.9」

9月19日(土)・20日(日) 上演2回 来場者数計56人
アフタートーク2回 参加者数計47人

※鳥の演劇祭13にて上演

【後期：研修・発表】

滞在期間
9月6日～13日(研修生：福永武史) 9月21日～28日 (研修生：宮下泰幸、菅沼岳、絵里子、下地萌音)
実施

演劇祭スタッフ研修：各8日間

鳥の劇場の運営についての講座：1日

講師・監修：中島諒人(鳥の劇場芸術監督)

講師：松本智彦(鳥の劇場制作)

活動報告

02

鳥の演劇祭 13 “BIRD” THEATRE FESTIVAL 13

半開きの殻^{シェル}・人間的距離を考えよう

～いつもの年と同様に いつもの年とちがうやり方で～



期間
9月12日(土)～27日(日)
会場
鳥の劇場 野外劇場 お茶会ドーム しかの心 鳥取市西商工会鹿野会館 他
実施
8日間 来場者数(延べ) 2,434人
上演プログラム
10演目・19回 計1,196人
アフタートーク
12回 計590人
無料ライブ配信
3演目・5回 計22人(ホワイエ視聴) 視聴回数(5日間計) 722回
上演以外
13事業・46回 計626人



鳥の演劇祭は、2008年より毎年開催している国際演劇祭ですが、今年は世界的な新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、国内のアーティストのみを招聘し開催することにいたしました。

第13回目となる「鳥の演劇祭13」は、「半開きの殻(シェル)・人間的距離を考えよう」をキーワードに、野外空間を生かしながら、演劇作品の上演だけでなく、音楽企画や他者との関わりを考えるアート系ワークショップの実施など、上演とワークショップを二本柱に行いました。また、若手舞台芸術創作団体に上演機会を提供し、創作活動の継続を支援する企画も行いました。

例年より会場も演目も少ない特殊な形でしたが、コロナ禍の状況の中で「安全安心」を基本に「楽しさ」と「考える」を最大限に追求し、人間の精神的営みや相互の関わり合いが、いかにかけがえのないものであるかを実感できるものとなりました。

同時期に開催された豊岡演劇祭2020との連携企画バスツアーにて地域相互交流も行いました。

※「週末だけのまちのみせ」は開催中止となりました。

【主催】鳥の劇場運営委員会

【共催】鳥取県 鳥取市

【助成】文部科学省 令和2年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業

【後援】鳥取県教育委員会 鳥取市教育委員会 米子市教育委員会 倉吉市教育委員会 境港市教育委員会 岩美町教育委員会 若桜町教育委員会 智頭町教育委員会 八頭町教育委員会 三朝町教育委員会 湯梨浜町教育委員会 琴浦町教育委員会 北栄町教育委員会 日吉津村教育委員会 大山町教育委員会 南部町教育委員会 伯耆町教育委員会 日南町教育委員会 日野町教育委員会 江府町教育委員会 新日本海新聞社 朝日新聞鳥取総局 山陰中央新報社 毎日新聞鳥取支局 読売新聞鳥取支局 産経新聞社 日本経済新聞社鳥取支局 中国新聞鳥取支局 NHK鳥取放送局 日本海テレビ BSS山陰放送 TSK さんいん中央テレビ 共同通信社鳥取支局 時事通信社鳥取支局 日本海ケーブルネットワーク FM鳥取・RADIO BIRD 鳥取県PTA協議会 いなびょんびょん ネット エフエム山陰 公益財団法人鳥取県文化振興財団

【プログラム・ディレクター】

中島諒人(演出家/鳥の劇場芸術監督)



上演プログラム

演目	劇団	日程	会場	上演	アフタートーク	無料ライブ配信	
『「マクベス」からさまよい出たもの-2020』	じゆう劇場〈鳥取〉	9月12日(土)・13日(日)	鳥の劇場[劇場]	2回 計78人	2回 計78人	2回 ホワイエ視聴提供無し 視聴回数(2日間計) 233回	【協力】鳥取県 【助成】  文化庁2020年度文化庁文化芸術創造拠点事業
『NIPPON・CHA! CHA! CHA!』		9月12日(土)・13日(日)	野外劇場	2回 計166人	2回 計158人		【共催】東京芸術祭実行委員会〔豊島区 公益財団法人としま未来文化財団 フェスティバル/トーキョー実行委員会 公益財団法人東京都歴史文化財団(東京芸術劇場・アーツカウンシル東京)〕
『libido: AESOP 0.9』	theater apartment complex libido:〈千葉〉	9月19日(土)・20日(日)	野外劇場	2回 計56人	2回 計47人		【助成】  文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会 公益財団法人ごうぎん鳥取文化振興財団
『ロング・グッドバイ』	福永武史と首都圏の若い演劇人	9月19日(土)・20日(日)	野外劇場	2回 計80人	2回 計72人		[とっとり発コロナ危機打破!アート活動支援事業]
『葵上』	鳥の劇場〈鳥取〉	9月19日(土)・20日(日)	鳥の劇場[劇場]	2回 計132人	1回 75人		【協力】石川県立音楽堂
『がまくんとかえるくん』	鳥の劇場〈鳥取〉	9月19日(土)・20日(日)	野外劇場	2回 計271人			
音の絵本『朗読と音楽で楽しむ宮沢賢治の世界』	新倉健と鳥取にゆかりのある音楽家	9月22日(火・祝)	鳥の劇場[劇場]	1回 81人		1回 17人(ホワイエ視聴) 視聴回数93回	[とっとり発コロナ危機打破!アート活動支援事業]
『爽快にたてまえ』『爽快なたてまえ』	シラカン〈神奈川〉	9月26日(土)・27日(日)	野外劇場	2回 計62人	1回 23人		[若手舞台芸術創作団体支援企画]
『ラブ・ダイアログ・ナウ』	スペースノットブランク〈東京〉	9月26日(土)・27日(日)	野外劇場	2回 計63人	1回 32人		[若手舞台芸術創作団体支援企画]
『友達』	鳥の劇場〈鳥取〉	9月26日(土)・27日(日)	鳥の劇場[劇場]	2回 計207人	1回 105人	2回 計5人(ホワイエ視聴) 視聴回数(2日間計) 396回	【助成】  文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会 公益財団法人ごうぎん鳥取文化振興財団



『「マクベス」からさまよい出たもの-2020』



『NIPPON・CHA! CHA! CHA!』 @水本俊也 MIZUMOTO Shunya



『ラブ・ダイアログ・ナウ』



『爽快にたてまえ』『爽快なたてまえ』



『ロング・グッドバイ』



音の絵本『朗読と音楽で楽しむ宮沢賢治の世界』



『libido:AESOP 0.9』



『葵上』



『がまくんとかえるくん』



『友達』

ワークショップ～新しい自分と出会うためのアートなお茶会

ワークショップ	進行・講師	日程	会場	開催
アトリエ・ワンとドームを作ろう	デザイン・進行：アトリエ・ワン	8月16日(土)	鳥の劇場[グラウンド]	1回 7人
青学キッズワークショップ オンライン＋ 【助成】令和2年度鳥取県地域活動応援事業	青山学院大学社会情報学研究センター 鳥取分室／青山学院大学 刈宿研究室	9月12日(土)・13日(日)・ 19日(土)・20日(日)	鳥の劇場[すみれ]	8回 計49人
演出家中島諒人によるワークショップ				
戯曲講座 安部公房『棒になった男』を読む。	中島諒人	9月12日(土)	お茶会ドーム	1回 5人
戯曲講座 テネシー・ウィリアムズ『ロング・グッドバイ』を読む。		9月13日(日)	鳥の劇場[ホワイエ]	1回 8人
大人も子どももいっしょ!短いお話でお芝居を作ろう		9月22日(火・祝)	芝生	1回 8人
池本喜巳写真の世界				
自作を通じて語る「写真は何を撮るか」	池本喜巳	9月12日(土)	鳥取市西商工会 鹿野会館	2回 計23人
		9月26日(土)	鳥の劇場[すみれ]	
スマホで挑戦「人を撮る」		9月13日(日)	鳥取市西商工会 鹿野会館	2回 計14人
		9月27日(日)	鳥の劇場[すみれ]	
台本づくりワークショップ	大岡淳	9月19日(土)・20日(日) (※2日間で1セット)	鳥取市西商工会 鹿野会館	2回 延べ10人 (※1日5人)
もじゃと小松の動画づくり授業				
1日目【ボールをつなぐ】	服部かつゆき(映像作家) 小松亜希恵(中学校教諭) 【機材協力】鳥取大学 藤田ラウンド幸世科研費	9月19日(土)	お茶会ドーム	2回 計12人
		9月21日(月・祝)	鳥の劇場[すみれ]	
2日目【物語をつなぐ】		9月20日(日)	お茶会ドーム	2回 計8人
		9月22日(火・祝)	鳥の劇場[すみれ]	
写真企画「親子フォトキャラバン」	水本俊也	9月19日(土)・20日(日)・ 21日(月・祝)・22日(火・祝)	鳥の劇場周辺、 鹿野町内	4回 計19組47人
みんなで歌うワークショップ	歌・講師：寺内智子 ピアノ演奏：西尾悦子 ファシリテーター：齊藤頼陽	9月21日(月・祝)・ 22日(火・祝)	お茶会ドーム	2回 計10人
産み育てを考えるワークショップ	講師：阿部初美 アシスタント：山根裕太	9月21日(月・祝)・ 22日(火・祝)	議場劇場	2回 計10人

その他のプログラム

プログラム	進行・出演者	日程	会場	開催
ランチコンサート	湯浅いづみ(バイオリン) 宗廣真澄(ピアノ)	9月12日(土)	鳥の劇場 [ホワイエ]	8回 計307人
	寺内智子(ソプラノ) 綿口裕美子(ピアノ)	13日(日)		
	坂上和佳子(クロマティック・ハーモニカ) 渡邊芳恵(ピアノ)	19日(土)		
	中嶋寄恵(チェロ) 稲干あかり(ピアノ)	20日(日)		
	竹田詩織(バイオリン) 竹田朋代(ピアノ)	21日(月・祝)		
	竹田詩織(バイオリン) 竹田朋代(ピアノ)	22日(火・祝)		
	棚橋恭子(ビオラ) 佐々木恭子(箏)	26日(土)		
	中嶋寄恵(チェロ) 渡邊芳恵(ピアノ)	27日(日)		
公開！小鳥の学校	大岡淳	9月21日(月・祝)・ 22日(火・祝)	鳥取市西商工会 鹿野会館	2回 計30人
写真企画「小鳥の家族」	水本俊也	9月19日(土)・20日(日)・ 21日(月・祝)・22日(火・祝)	鳥の劇場周辺、 鹿野町内	4回 計16組68人
演劇祭ミニ上映会				
『新しき民』	アフタートーク：中垣直久	9月26日(土)	鳥取市西商工会 鹿野会館	1回 5人
ドキュメンタリー 2本立て『じゅう劇場の瞬き』・ 『BeSeTo演劇祭26+鳥の演劇祭12ドキュメンタリー』		9月27日(日)		1回 5人

■9月11日(金)には、RADIO BIRD FM鳥取にて鳥の劇場presents『トリラジ』の生放送も行いました。



【お客様の声】

『NIPPON・CHA!CHA!CHA!』

- 野外ならではの臨場感、役者さんの熱量、豪華な音楽と、とても満足な内容でした。途中財界の大御所たちのテレビ出演のシーンが入ったことで、物語に深みというか闇が増したように感じました。甲子園や箱根駅伝など、一生懸命努力する若者からエネルギーをもらったり感動すること自体は人間の本能として素晴らしい感性であるはずなのに、そこに利権、お金が絡むと一瞬で醜いものになってしまう。カズオの姿もまた美しいはずなのに、周囲の人々の応援する気持ちも程度の差こそあれ純粋なものはずなのに、最終的にカズオを追い込み人生を変えてしまう。ある種の恐ろしさを感じました。
- カズオ君を追い込んだ人達は別に悪気があってやった訳じゃない、悪人ではないという点も分かるような描かれ方をされていたのがとても良かったです。これこそ、誰もが見えない内に誰かを追い込んでいるかも知れないことに対する戒めのメッセージなのだろうと感じました。そして、そんな「小市民」である事に悔しさを滲ませながらも、明日が来れば一日一日なんとか生活をしていく他はない、それを過剰に卑屈に描くのではなく、明るさを含んで表現されていたため、余計に刺さるものがありました。今回は野外劇で役者さんの熱量が余計伝わったような気がします。生演奏も本当に素晴らしく、パワー満点のお芝居でした。力を頂きました。ありがとうございました。

『葵上』

- よかった。役者みんな気迫がこもっていた。今回は康子さんの執念が実って、葵から光を取り戻すことに成功したように見えて感動しました。
- 葵上は何度も観ているが、何度も見ていると役者の個性が見えてきて、楽しく観ることができた。頼陽さんの六条は魅力的で、それでいて頼陽さんの個性が溢れていて、観ることができてよかったです。

『がまくんとかえるくん』

- とても楽しいイベントでした。演劇の作り方、楽しみ方をやさしく解説して、子供たちも素直に喜んでいました。演劇の拡がりにも意義のあるものと思います。次の機会には孫を連れてきたいと思います。
- 三つの音楽が提示されたが、その音楽での演技がそれぞれカエルくんががまくんのシャツを持ち上げるところから考え込まれていて、また演技も大きく、非常にわかりやすくされていて大人でも大変ためになるプログラムと感じてよかった。

音の絵本『朗読と音楽で楽しむ宮沢賢治の世界』

- 新倉先生の宮沢賢治はいつも感動的です。中川さんの朗読は超えてますね。もちろん大川さんも演奏も素晴らしかったです。皆さん辛い状況の中でライブの機会に喜びが伝わってきました。オーケストラへの支援には日本も捨てたもんじゃないと思いました。

『友達』

- 今回見た『友達』は今まで見た演劇の中で最高でした。心から感動しました。青年の最後の迫真の演技、素晴らしかったです。以前他の団体の『友達』も見てから好きな演劇でしたが、今回の友達は、コロナのこともあって自分のこととしてとらえやすく、意味も分かりやすく非常に胸に突き刺さるものがありました。コロナがあって演劇はとても大変だったことが中島さんの言葉から伝わってきました。でも、コロナの不安の中だからこそここまでこの演劇に感動できたんだと思いました。友達、来年からもう是非再演してほしいです。

ワークショップ他

- 前から気になっていたものの、何となく来るチャンスがなく、今回、以前参加したフォトキャラバンの水本さんから案内をいただいたので、「親子フォトキャラバン」に参加、せっかくなので、『がまくんとかえるくん』も観て帰ろうという感じで観劇しました。とても有意義で、子どもたちも喜んでいたので、これを機会にこれからは、また来てみようという気になりました。フォトキャラバンもがまくんも楽しかったです。
- 「動画づくりワークショップ」はおっかなびっくりで参加しましたが、講師の方が面白くて、動画作成が楽しかったです。
- 「台本づくりワークショップ」は本当に楽しかったです。自分の作った台本に細かくご指摘がいただけてとても嬉しかったです。参加動機として「人に指導されたことがないから」ということをあげていましたが、思い返してみると自己満足にならないよう人との感覚のすり合わせをしたかったのかもしれないと思うようになりました。
- 池本さんのワークショップは解りやすくとても楽しかった。スライドショーも楽しかった。

障がいのある人となない人が一緒に舞台作品をつくるプロジェクト。2020年度も鳥取県内全域に「じゅう劇場」の出演者・スタッフを募集し、計14名の出演者（鳥の劇場の俳優を除く）が集まりました（内10名は昨年からの継続参加）。小学生から60代まで幅広い年代の参加で、障がいの有無だけでなく、様々な年代の人が入り混じった共生社会の形が生まれました。

今年度は、2019年度に創作した『「マスベス」からさまよい出たもの』を新しい参加者の体験談などを織り交せて新演出作品として創作し、鳥取県内で3回、県外で1回の公演を行いました。加えてじゅう劇場のワークショップメニューの開発のために、稽古のウォーミングアップとして行なっているワークショップの様子を映像に収め、YouTubeに日本語字幕・英語字幕付きで公開しました。

また、障がいのあるプロアーティストを支えるニューヨークのオフブロードウェイ劇団TBTB (Theater Breaking Through Barriers)との共同制作では、じゅう劇場の俳優とニューヨークの俳優による短編作品2作品を、それぞれが日本とアメリカにしながら企画・稽古・録画まで、ウェブ会議ツールzoomを使い映像作品として創作、YouTube上で公開しました。

『「マクベス」からさまよい出たもの -2020』

上演	■原作／W.シェイクスピア ■「配役」台本／永山智行 ■構成・演出／中島諒人 ■出演／じゅう劇場：石井優美 井谷優太 井谷憲人 北村未菜 岡岡由佳梨 島田ひかる 大黒めぐみ 西垣伸子 三嶋志乃 三谷彩歌 三好眞比郎 村上明美 山本英子 和田尚也 鳥の劇場：齊藤頼陽 高橋等 安田茉耶 ■スタッフ／舞台監督：三津久 舞台スタッフ：大野英寿 照明：生田正 照明スタッフ：三枝淳 音響：大黒裕典 [オハラ企画] 演出助手・衣装：安田茉耶 舞台美術：中島諒人 中垣直久 小道具製作：中垣直久 進行補助：島田敬子 和田ひとみ 北村ひろみ 作曲・編曲：新倉健 井谷優太 演奏（録音）：Pf渡邊芳恵 Vla武中淳彦 英語字幕翻訳：増川智子 字幕作成：安田茉耶 三輪冬子 字幕操作：中垣直久 三輪冬子 手話通訳：鳥取県西部聴覚障がい者センター 音声ガイド台本作成：Reading Act 音声ガイド：大川潤子 映像撮影・配信：M&M.co 制作：鳥の劇場
アフタートーク	2回 計78人
無料ライブ配信	3回 視聴回数（3日間計）345回

公演	会場	日程	上演	アフタートーク	無料ライブ配信
障がい者の文化芸術フェスティバル in中四国ブロック公演 【主催】障害者の文化芸術国際交流事業実行委員会	倉吉未来中心 大ホール	9月5日(土)	1回※無観客・無料ライブ配信公演		1回 視聴回数112回
鳥の演劇祭13公演	鳥の劇場[劇場]	9月12日(土)・13日(日)	2回 計78人	2回 計78人	2回 視聴回数（2日間計）233回
島根公演	島根県民会館 中ホール	2021年3月7日(日)	1回 68人		

じゅう劇場とTBTBによる日米共同制作

ニューヨーク在住の劇作家Jeff Tabnick氏とFareeda Pyracha Ahmed氏がそれぞれ書き下ろした作品をもとにニューヨークのオフブロードウェイで活動するTBTB (Theatre Breaking Through Barriers 障がいを突き破る劇団)とじゅう劇場が共同で映像作品を創作しました。コロナウイルスの状況を鑑み、稽古から作品創作・発表までをオンライン上で行いました。

- 収録日時／2021年1月9日(土)・1月16日(土)
- 収録場所／鳥の劇場・ニューヨーク
- 公開場所／鳥の劇場・TBTB各Youtubeチャンネル

『CTRL L』（コントロール エル）

- 作／ジェフ・タブニック
- 演出／ニコラス・ヴィセリ 中島諒人
- 翻訳／増川智子
- 出演／ヒロト：三好眞比郎 ユナ：島田ひかる ジョン：ニコラス・ヴィセリ エイミー：アン・マリー・モレリ 演出家バック：齊藤頼陽
- 音楽／井谷優太
- 編集／ニコラス・ヴィセリ タッカー・サロヴァアラ



期間
6月12日(金)～2021年3月7日(日)
実施
40日間(長編作品稽古31回／共同制作事前リハーサル3回／共同制作リハーサル4回)参加者数14人

- 【主催】鳥の劇場運営委員会
- 【協力】鳥取県
- 【助成】文化庁 令和2年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業
- 【助成】日米友好基金（日米共同制作について）



『THE CASTING PARTY』（カスティング・パーティー）

- 作／ファリーダ・アーメッド
- 演出／ニコラス・ヴィセリ 中島諒人
- 翻訳／増川智子
- 出演／安珍：井谷優太 清姫：石井優美 パディ：スティーブン・ドラビッキ ペトラ：パメラ・サバー
- 音楽／井谷優太
- 編集／ニコラス・ヴィセリ タッカー・サロヴァアラ ポール・ガスクラー



じゅう劇場メンバーによるワークショップ事業

じゅう劇場がウォーミングアップとして行なっているワークショップの様子を、日英の字幕をつけ、映像にして公開しました。

障がいのある人との活動ではこんなこともやりました。

〈国際共同プログラム〉

共生社会東アジアモデル構築事業 日韓共同プロジェクト 演劇で編む『共に生きる』

期間
2020年1月～2021年3月5日(金)

今年度からの新しい事業。国境の壁を超えて、障がいのある人たちと一緒に作品創作をし、その過程を通じて、両国それぞれの障がいを巡る状況を共有したり、現場での課題を見つめながら、より良い共生社会のあり方を考えることを目指します。

初年度の今年は、韓国の国立大学「韓国芸術総合学校」との共同事業の形で実施。当初は日本と韓国の障がいのある人となない人が、いっしょに舞台を作ることを目指しスタートしましたが、2020年2月以降、新型コロナウイルスの感染拡大が世界中に広まるにつれ、日韓共同で作品を作り、両国で上演するという企画は実現が難しい状況となりました。ですが、諦めず、今年は日本と韓国と別々に、同じ脚本を使ってリーディング作品をつくることにしました。

日本編については、障がいのある方の基礎疾患等を考慮し、また、クラスター発生の可能性を最大限抑えるため、個人ではなく事業所を公募し、演出家・もりなが氏の居住地である奈良県内の事業所「たんぽぽの家」を選定。作品創作、発表もたんぽぽの家で行い、無観客・YouTubeライブ配信のみとしました。また、日韓の作品創作現場をつなぐために、zoomでの意見交換会を定期的に開催し、作品創作の過程の共有から、上演後のフィードバックまでを行いました。

『とある村』リーディング公演

日本では劇団くらっぽの演出家もりながまこと氏が、韓国では劇団スパースモンキー主宰のチョン・ソングョン氏が演出を担当。それぞれリーディング作品をつくり、上演しました。脚本は、韓国人作家イ・ヨンジュ氏の新作書き下ろし台本『とある村』です。

実施 日本編
1日 プログラム来場者数0人 会場：シアターポポ（奈良県奈良市六条西3-25-4たんぽぽの家内）
上演
1回 3月2日(火) ※無観客・無料ライブ配信公演

『とある村』上演+アフタートーク
※鳥の劇場YouTubeアカウントに配信アーカイブ映像あり

文化庁委託事業 令和2年度障害者による文化芸術活動推進事業（文化芸術による共生社会の推進を含む）「共生社会東アジアモデル構築事業 演劇で編む『共に生きる』」 【主催】文化庁 特定非営利活動法人鳥の劇場 【制作】特定非営利活動法人鳥の劇場 【韓国編主催】韓国芸術総合学校	※日韓共同プロジェクト報告書があります。
---	----------------------

〈地域を知り、地域で実践するアートマネジメント講座2020 概論編特別講座〉

障害のある人となない人がともに創り楽しむ演劇を通じて考える共生社会

韓国の演劇作品の鑑賞を通して、演劇創造に欠かせない「共働」から見える共生社会の在り方について考えました。上映後には演出を担当したクォン・ジヒョン氏と鳥の劇場芸術監督である中島諒人によるアフタートークも開催しました。

Very Special Arts village『のんびり、のっそりカメさん』

- 作／イ・ボラム
- 演出／クォン・ジヒョン
- 映像／地球人スタジオ

【共催】鳥取大学地域学部付属芸術文化センター 令和2年度文化庁大学における文化芸術推進事業採択「地域資源を顕在化させるアートマネジメント人材育成事業」

- 作／イ・ヨンジュ
- 日本語翻訳／イ・ホンイ
- 演出／もりながまこと [劇団くらっぽ]
- 演出助手／藤拓道 蔵元徹平 [たんぽぽの家・アートセンター HANA]
- 出演／劇場長1：田井克典 劇場長2：山口広子 劇場長3：本田律子 工場長：下津圭太 調理師：河野望 農夫：たーやん 心理療法師：大西照彦 獣医師：上埜英世 卵・鶏：河口彰吾 太陽：清水要一
- 声の出演／北川憲一
- 友情出演／鶏：(故)松本圭示 (2015年7月31日永眠) 黒子：行方雄大 菱川瑞姫 上園梨沙 佐藤拓道 蔵元徹平
- スタッフ／音響：島田達也 河合陽三 [リバーフェーズ合同会社] 照明：魚森理恵 照明助手：木内ひとみ ライブ配信・映像制作：加藤文崇 [レ・コンテ] 早川聡 川崎麻耶 西口由梨 衣装製作：是永ゆうこ (アートセンターHANAスタッフ) 松村賢二 (アートセンター HANAメンバー) 中村真由美 (アートセンターHANAメンバー) 小道具製作：松谷可椰子 (アートセンター HANAスタッフ) 東知彩貴 (アートセンター HANAスタッフ) 水田篤紀 (アートセンター HANAメンバー) 富丸風香 (アートセンター HANAメンバー) 中野貴太 (アートセンターHANAメンバー) 福岡左知子 (アートセンター HANAメンバー) 手話通訳：一般社団法人 奈良県聴覚障害者協会 通訳・翻訳：田川智子
- 協力／たんぽぽの家 アートセンター HANA
- 企画・制作／鳥の劇場

実施 韓国編
2日間 会場：韓国芸術総合学校 演劇院 実験舞台
上演
2回 2021年3月4日(木)・5日(金) ※両日観客あり・5日(金)のみライブ配信あり

『とある村』上演+アフタートーク
※韓国芸術総合学校YouTubeアカウントに配信アーカイブ映像あり

【お客様の声】

- いいものを見せて貰いました。脚本は、現代を抽象的に具像した鋭角なメルヘンって感じで、とても躍動的な若さを感じるものでした。ところが役者さんたちの身体と声を通して現れてくる世界は、ものすごく重力があるスリリングなものに変容していく。その深さが面白かったです。
- ジョークが障害者あるあるだったので新鮮で素敵でした。卵を真ん中にみんなが叫ぶシーンはぶっ飛んでいて映像も声もメチャロックでした!
- 卵を噛み締めて語る「ありがとう」と言う言葉には、恐ろしい重みを感じました。命というものの全てに重みがある。一人一人の表情が伝えてくれて、泣きそうになりました。

Very Special Arts village『のんびり、のっそりカメさん』上映会

実施
1日 プログラム来場者数31人 会場：ギャラリー鳥たちの家
上映
1回 12月5日(土)
アフタートーク
演出家 クォン・ジヒョン×鳥の劇場芸術監督 中島諒人



活動報告

04

トリジユク

「トリジユク」の研究開発事業に着手して4年目、実施校は西いなば地域3校に増えました。

取り組みの幅も広がりました。特に、県内修学旅行を受け入れての「観劇とワークショップ体験」は好評で、すでに次年度2校が決まっています。

トリジユクでは、担当教員の先生とアーティストの連携が不可欠で、それぞれ専門的な立場から子どもたちを“看取る”ことを大切にしています。核となる対象校での継続を支えとして、これからも各方面からの依頼にも応えられる体制を整えていきたいと考えています。

※「トリジユク」は、鳥の劇場が実施する、演劇を使った「芸術表現体験活動と省察活動による教育プログラム」(青山学院大学学習コミュニティデザイン研究所による開発)のこと。

【主催】鳥の劇場運営委員会 鳥取県

【共催】鳥取市 特定非営利活動法人鳥の劇場

【協力】青山学院大学社会情報学部附属社会情報学研究センター学習コミュニティデザイン研究ユニット NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会 鳥取大学地域学部附属芸術文化センター

【教育活動アドバイザー】刈宿俊文(青山学院大学社会情報学部教授)

〈トリジユク関連事業〉

■人権教育講演会「表現ワークショップ“トリジユク”実践について」

保護者に向けてトリジユクについての講演とワークショップを行いました。

講師：中川玲奈

6月13日(土) 会場：鳥取市立瑞穂小学校

■鳥取市文化センター第3回ミニアートギャラリー

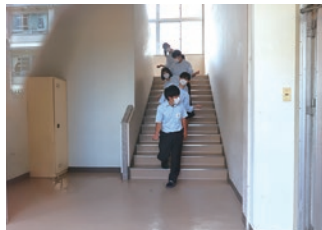
「鳥の劇場～学校とつながる劇場、トリジユクプロジェクト～」

トリジユクプロジェクトについての展示を行いました。

期間：2021年1月12日(火)～25日(月)

会場：鳥取市文化センター 1階ギャラリー

【主催】一般財団法人鳥取市教育福祉振興会



活動報告

05

アウトリーチ

教育・福祉現場等での講座・ワークショップ・読み聞かせ

- 保育園・幼稚園 美哉幼稚園 ワークショップ
鳥取市立鹿野幼児センターこじか園 読み聞かせ活動：5回(延べ342人)
- 小学校 鳥取市立逢坂小学校 学習発表会支援(☆)：30人
鳥取市立明德小学校 学習発表会支援
- 中学校 三朝町立三朝中学校 人権劇(映画)づくり支援(★)
鳥取市立気高中学校 総合学習「生き方フォーラム」にて講話
- 小中一貫校 鳥取市立鹿野学園 文化祭支援(☆)
鳥取市立鹿野学園 選択授業「演劇」コース講師(☆)：21回15人(延べ315人)
- 特別支援学校 鳥取県立白兔養護学校 ワークショップ(☆)：2回7人(延べ14人)
- その他 「さくらんぼ」おはなし会 読み聞かせ活動：6回(延べ90人)
(会場：鹿野学園流沙川学舎)
子育て支援センター・カンガルー 絵本をお芝居にするワークショップ：1回
アトスペースからふる ワークショップ：2回

(☆)…[地域に演劇力お届け事業]

(★)…[文化芸術による子供育成総合事業]

専門性のアウトリーチ

- 鳥取市立こじか幼稚園学校評議員：中川玲奈
任期：4月1日～2021年3月31日
- 鳥取市立鹿野学園地域創造学校運営協議会委員：中川玲奈
任期：6月1日～2021年3月31日
- 鳥取県教育センター研修講師：中島諒人
7月28日(火) 会場：鳥取県民体育館
- 座・高円寺レクチャー：中島諒人
オンラインにて 9月5日(土)
- 鳥取県立鳥取盲学校専攻科「人間と社会」特別非常勤講師：中川玲奈
10月15日(木) 会場：鳥取県立鳥取盲学校
- 鳥取県障がい者芸術・文化活動推進委員会令和2年度第2回推進会議：齊藤頼陽
11月11日(水) 会場：とりぎん文化会館
- 令和2年度鳥取県立図書館国際交流ライブラリー講演会
～本でひらこう世界への扉 第2回「演劇が編む日韓の未来」講師：中島諒人
12月6日(日) 会場：倉吉未来中心
- 三朝町立三朝中学校進路学習「社会人に学ぶ」講師：中川玲奈
オンラインにて 2021年1月27日(水)





活動報告

06

鳥の劇場以外での上演

コロナ禍の厳しい状況にもかかわらず、フェスティバル主催者の熱意と周到な準備により二箇所で開催を行うことができました。二箇所とも日本海側であるのは、鳥取の我々としては非常にうれしいことでしたし、文化の東京一極集中を乗り越えていくという意味でもとても意義深いことでした。

利賀村の岩舞台は、舞台上に巨大な岩があり、背景に森が広がる唯一無二の劇場です。SCOTの演出家・鈴木忠志さんに作品を見ていただける本当に貴重な機会でもあります。また、石川では、千住明さん書き下ろしの曲による、オーケストラアンサンブル金沢の優れた演奏家との共演は、新しい出会いとして我々の貴重な資産となりました。

【国内公演】

SCOTサマー・シーズン2020『友達』

期間
8月28日(金)・29日(土)
会場
富山県利賀芸術公園 岩舞台
上演
2回 来場者数計212人

音楽堂・演劇フェスティバル『葵上』

期間
10月2日(金)・3日(土)
会場
石川県立音楽堂 交流ホール 特設ステージ
上演
2回 来場者数計137人



『友達』@水本俊也 MIZUMOTO Shunya



『友達』提供：SCOT



『葵上』



活動報告

07

その他の活動

【TOTTORI LIVE YELL Project】

「ライブにエールを。ライブでエールを。」をキーワードに、音楽と演劇を掛け合わせた舞台芸術プログラムを米子・倉吉・鳥取で開催しました。コロナ禍の中で大きな打撃を受けている実演芸術を盛り上げ、地域のみなさんにもその魅力をもっと知ってもらおうということで、この企画が立ち上がりました。鳥の劇場がとりまとめ役となって、鳥取県内の優れた音楽家のみなさんといっしょに「合唱と演劇」「クラシックと演劇」「ジャズと演劇」の3つの作品を上演、また会場に足を運べない方のために全公演のライブ配信も行いました。更に、ネットの利用に慣れていない方のために、県内の文化施設や集会施設でのライブビューイングを実施しました。

12月20日(日)	山陰少年少女合唱団リトルフェニックス×鳥の劇場 合唱×演劇	来場者数405人 会場：米子市公会堂
12月26日(土)	オーケストラ・オペラ×鳥の劇場 クラシック×演劇	来場者数416人 会場：倉吉未来中心 大ホール
12月26日(土)	鳥取JAZZ×鳥の劇場 JAZZ×演劇	来場者数502人 会場：とりぎん文化会館 梨花ホール

【主催】文化庁 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 TOTTORI LIVE YELL project実行委員会
【実行委員会】特定非営利活動法人鳥の劇場 公益財団法人鳥取県文化振興財団 新倉健 鳥取JAZZ 山陰少年少女合唱団リトルフェニックス 一般財団法人米子市文化財団 日本海テレビジョン放送株式会社 株式会社新日本海新聞社 日本海ケーブルネットワーク株式会社 株式会社FM鳥取 株式会社エムアンドエムドットコー 鳥取県地域づくり推進部文化政策課

※TOTTORI LIVE YELL Project報告書があります。

【客演】

- 東京芸術祭2020 野外劇『NIPPON・CHA! CHA! CHA!』
上演台本・演出：中島諒人 出演：齊藤頼陽
10月18日(日)～25日(日)
会場：池袋西口公園 野外劇場「GLOBAL RING THEATRE」
- 音の絵本コンサート「よだかの星」朗読出演：中川玲奈
11月9日(月) 会場：鳥取県立鳥取中学校
- 木ノ下歌舞伎『義経千本桜一渡海屋・大物浦一』出演：大川潤子
東京公演 2021年2月26日(金)～3月8日(月)
会場：シアタートラム
豊橋公演 3月13日(土)・14日(日)
会場：穂の国とよはし芸術劇場プラット

『NIPPON・CHA! CHA! CHA!』
撮影：住田磨音

【大学連携】

- 鳥取大学授業 講師：中島諒人
- 鳥取短期大学「現代鳥取学」講義 講師：松本智彦
7月20日(月) 受講生100人
- 鳥取大学地域学部地域学科国際地域文化コースインターンシップ
9月17日(木)～9月20日(日) 参加者数2人
※鳥の演劇祭13にて実施

【教育における劇場利用】

- 鳥取市立津ノ井小学校6年生修学旅行
『がまくんとかえるくん』上演+WS 来場者数45人



【その他】

- 鳥取県観光連盟(教育旅行誘致プロモーター)
劇場案内+鳥の劇場・トリジユクについて+WS体験
7月9日(木) 来場者数6人
- サポーター報告会 7月24日(金) 来場者数17人
- 夏休みボランティア体験事業の受け入れ
(公益社団法人とっとり県民活動活性化センター)
8月3日(月)～5日(水) 1名
- 第9回鳥取まちゼミ「人生初の演劇体験はいかが?」
11月14日(土)・15日(日) 参加者数計4人
会場：ギャラリー鳥たちの家
- 公立文化施設協議会中四国来場 劇場見学+取り組みの紹介+WS体験
12月11日(金) 来場者数40人
- アート団体「ことり舎」撮影のための劇場使用
12月11日(金) 来場者数5人
- 「第11回地域再生大賞-コロナ禍を越えて」優秀表彰式
3月2日(火) 会場：新日本海新聞社
- アート活動者意見交換会
3月25日(木) 会場：とりぎん文化会館
- 鳥の劇場 presents『トリラジ』毎週土曜日16:30～17:00
RADIO BIRD FM鳥取(82.5fm)

【見学・視察訪問等】

個人の劇場見学／24人

視察／

- 労働基準監督署視察(じゆう劇場について) 1人
- 米子工業高等専門学校建築学科(研究テーマのための視察) 2人
- 岡山県議会環境文化保健福祉委員会 13人

ヒアリング調査／

- 公益社団法人全国公立文化施設協会(じゆう劇場について) 1人
など、年間計41人

新型コロナウイルス感染症予防対策

鳥の劇場は、関係者の感染防止とクラスターを発生させないことを大きな目標に、対策マニュアルを作成しさまざまな対応を行いました。鳥取県による「鳥取県新型コロナウイルス対策認証事業所」として県内5番目の認証も得、観客の皆さんに安心して観劇、あるいは事業に参加をしていただくことができました。

新型コロナウイルスをめぐる状況は刻々と変化していきますが、状況にあわせた対応を行い、収束まで活動継続と感染症対策の両立を図っていきます。



■入場時の検温・情報把握・ソーシャルディスタンスの周知



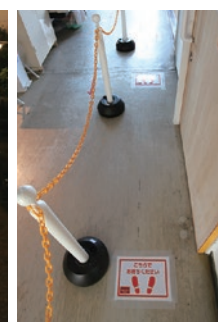
■感染症対策の貼紙による注意喚起



■進行方向の徹底(会場入口)



(廊下)



(劇場通路)



■劇場特別入口の設置



■鳥のカフェ食器返却棚の設置



■接触防止・飛沫対策



■食事時の飛沫対策(ホワイエ)



(中庭)



■野外劇場



■換気の徹底・各所に消毒液を設置



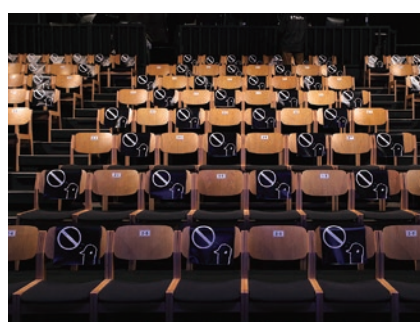
■消毒の徹底



■遊具の使用制限



■座席ナンバー設定による情報把握



■屋外休憩処設置



■生配信演目の提供



お客様の声

【9月演劇祭】

- 違和感なく協力できる範囲だったと思う。
- 換気ができているので大丈夫だと思います。アルコールも用意されていてよかったと思います。
- とても行き届いた対策だったと思います。参考にさせていただきます。
- 丁寧に最大限気を使われていてよかった。
- 自由席制と観客の使用座席把握を両立されてて、とてもいいなと思いました。
- チケットに座席記録用紙をつけて配布し回収するやり方が、良い考えだと思いました。

【2月公演】

- そこまでするかと思う程してあり安心です。
- 見習いたいような対策をされています。
- 良かったように思います。リストバンドをしたということで自覚できました。
- 客席が一つ飛ばしであり、安心して観られた。

【3月公演】

- いつも万全な対応に感謝し、安心して来場しています。
- とても細やかに感染対策をとられていると思います。ありがとうございました。
- 1席空きは感染症対策であったが、見やすい面でも効果ある。
- いたる所に消毒が置いてあり、安心しました。ありがとうございました。
- しっかり対策されていますが、物々しい感じがせず、新しい生活様式だなと感じました。(検温済バンド、隣とのスペースを示す黒い鳥ちゃんのカバーなど)
- ゴミ箱のフタがセンサーで開くんですね。
- 最後の質問コーナーの際に、マイクをその都度拭かれていたこと、気を付けられているなあと感じました。
- そっと配慮してある感じで、でもしっかり工夫されていて、とても雰囲気をつくさない感じでした。

【資料1】鳥の劇場 2020年度プログラム 観客アンケート集計結果

2020年度	創るプログラム 『戦争で死ねなかった お父さんのために』		いっしょにやるプログラム 子どものための『小鳥の学校』 発表公演『人魚姫』		試みるプログラム 『つくる高校生』 発表公演『DOLL』		じゅう劇場 島根公演『「マクベス」から さまよい出たもの-2020』	
来場者数（ライブ配信視聴回数） アンケート数 アンケート回収率	396 176	(306) 44.4%	242 75		102 39		68 43	
				31.0%		38.2%		63.2%
この公演をどうやってお知りになりましたか？(複数回答可)	173		74		37		42	
鳥の劇場からの案内	95	40.8%	24	26.1%	12	25.5%	13	26.5%
郵便	67	66.3%	12	60.0%	6	50.0%	6	85.7%
メール	30	29.7%	4	20.0%	5	41.7%	1	14.3%
劇場で	4	4.0%	4	20.0%	1	8.3%	0	0.0%
チラシ・ポスター	70	30.0%	27	29.3%	6	12.8%	15	30.6%
街なか	36	52.2%	0	0.0%	1	16.7%		
学校	13	18.8%	19	95.0%	5	83.3%		
新聞折込チラシ							9	100.0%
福祉施設							0	0.0%
他の施設	20	29.0%	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%
各種メディア	48	20.6%	9	9.8%	4	8.5%	3	6.1%
WEBサイト	16	30.2%	3	30.0%	1	25.0%	1	50.0%
SNS(Twitter・Facebook)	12	22.6%	5	50.0%	2	50.0%	1	50.0%
ラジオ[トリラジオ]	2	3.8%	0	0.0%	1	25.0%		
ネット広告	1	1.9%	0	0.0%				
新聞記事	22	41.5%	0	0.0%	0	0.0%		
その他	0	0.0%	2	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
出演者から					23	48.9%		
島根県民会館からの案内							9	18.4%
その他	20	8.6%	32	34.8%	2	4.3%	9	18.4%
その他(記述回答)	知人、友人、家族から、学校の土曜授業で		子どもが出演、親族から、出演する友達から、友達、知人から、学校で働く家族から				知人、友人、家族から、しかの心の整体局長から、愛地球実行委員、新聞(当日)	
現在のお住まいはどちらですか？	176		75		37		42	
鹿野町内	17	9.7%	8	10.7%	1	2.7%		
鳥取市内(鹿野町以外)	85	48.3%	28	37.3%	22	59.5%		
鳥取県内(鳥取市以外)	52	29.5%	38	50.7%	12	32.4%		
鳥取県外	22	12.5%	1	1.3%	2	5.4%		
松江市内							30	71.4%
島根県内							6	14.3%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	14.3%
県外内訳	来場:東京1、大阪1、兵庫3、岡山5、島根2、記載無し2(ライブ配信視聴:東京4、栃木1、愛知1、兵庫1、広島1)		兵庫1		奈良2		広島1、鳥取5	
性別	175		75		37		41	
女性	100	57.1%	43	57.3%	23	62.2%	25	61.0%
男性	73	41.7%	31	41.3%	14	37.8%	16	39.0%
回答しない	2	1.1%	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%
年齢	176		74		37		42	
10歳未満	0	0.0%	1	1.4%	1	2.7%	0	0.0%
10代	11	6.3%	13	17.6%	3	8.1%	4	9.5%
20代	11	6.3%	4	5.4%	3	8.1%	4	9.5%
30代	13	7.4%	10	13.5%	0	0.0%	3	7.1%
40代	29	16.5%	28	37.8%	12	32.4%	8	19.0%
50代	33	18.8%	10	13.5%	6	16.2%	6	14.3%
60代	56	31.8%	2	2.7%	9	24.3%	6	14.3%
70代	18	10.2%	6	8.1%	2	5.4%	11	26.2%
80歳以上	4	2.3%	0	0.0%	1	2.7%	0	0.0%
回答しない	1	0.6%						
鳥の劇場へ来場されたことはありますか？	174		75		37		42	
来場したことがある	134	77.0%	47	62.7%	18	48.6%	12	28.6%
今回が初めて	40	23.0%	28	37.3%	19	51.4%		
ない							30	71.4%
前回来場されたのはいつごろですか？	124		39		17		12	
半年以内	52	41.9%	8	20.5%	5	29.4%	1	8.3%
一年以内	36	29.0%	15	38.5%	5	29.4%	4	33.3%
一年以上前	36	29.0%	16	41.0%	7	41.2%	7	58.3%
年にどれくらい来場されますか？	109		33		13		10	
1回	31	28.4%	21	63.6%	3	23.1%	6	60.0%
2～3回	59	54.1%	9	27.3%	8	61.5%	2	20.0%
4回以上	19	17.4%	3	9.1%	2	15.4%	2	20.0%
その他	0	0.0%						
鳥の劇場のライブ配信を視聴されたことがありますか？	103							
20年5月「帽子屋さんのお茶の会」	68	66.0%						
20年9月「マクベスからさまよい出たもの-2020」	7	6.8%						
20年9月「吾の絵本」	1	1.0%						
20年9月「友達」	6	5.8%						
20年12月「TOTTORI LIVE YELL project」	21	20.4%						
21年2月「戦争で死ねなかったお父さんのために」が初めて	25	24.3%						

※「アンケート数」と「総回答数」の誤差は、感想のみ記載の回答があるためです。
※設問の違いにより空欄部分があります。

【資料2】鳥の劇場 2020年度収支決算

収入の部

単位：円／％					
	2020年度		2019年度		比較
科目	決算額(a)	構成比	決算額(b)	構成比	(a)－(b)
チケット収入・受講料 ※1	2,149,700	1.3%	3,408,300	3.4%	△ 1,258,600
外部上演料・講師料・出演料等	12,200,233	7.2%	6,571,270	6.6%	5,628,963
受託費	99,151,072	58.3%	35,785,000	35.9%	63,366,072
鳥カフェ・物販売上	760,515	0.4%	718,544	0.7%	41,971
雑収入	5,374,942	3.2%	4,009,581	4.0%	1,365,361
寄付金(サポーター) ※2	6,800,000	4.0%	2,935,000	2.9%	3,865,000
寄付金(企業協賛ほか)、受取会費	75,359	0.0%	75,000	0.1%	359
助成金・補助金	43,612,277	25.6%	46,193,975	46.3%	△ 2,581,698
合計(A)	170,124,098	100.0%	99,696,670	100.0%	70,427,428
※1 2020年度:鳥取市文化芸術活動緊急応援プロジェクト「地域でがんばる民間ミュージアムの応援事業」からの50万円を含む					
※2 2019年度:214人/599口、2020年度:376人/1329口(人数には団体や法人を含む) 2019、2020年度ともに、公益社団法人企業メセナ協議会の助成認定制度を活用した寄付金含む 2019年度「アンティゴネ」公演に対し:4600,000円、2020年度「戦争で死ねなかったお父さんのために」公演に対し:1,215,000円					

支出の部

単位：円／％					
	2020年度		2019年度		比較
科目	決算額(a)	構成比	決算額(b)	構成比	(a)－(b)
事業費	メンバー人件費	40,294,620	24.2%	37,585,184	37.4%
	その他	107,153,664	64.4%	45,935,069	45.7%
管理費・その他	19,067,515	11.5%	16,995,960	16.9%	2,071,555
合計(B)	166,515,799	100.0%	100,516,213	100.0%	65,999,586
収支差額(A)－(B)	3,608,299		△ 819,543		

助成金・補助金内訳

単位：円／％					
	2020年度		2019年度		比較
科目	決算額(a)	構成比	決算額(b)	構成比	(a)－(b)
ごうぎん鳥取文化振興財団	300,000	0.69%	100,000	0.22%	200,000
公益信託 とりぎん青い鳥基金		0.00%	250,000	0.54%	△ 250,000
文化庁 ※1	27,189,197	62.34%	28,099,975	60.83%	△ 910,778
鳥取県 ※2	13,360,000	30.63%	13,934,000	30.16%	△ 574,000
山陰・夢みなと博覧会記念基金 ※3	0	0.00%	775,000	1.68%	△ 775,000
独立行政法人日本芸術文化振興会 ※4	0	0.00%	3,015,000	6.53%	△ 3,015,000
その他 ※5	20,000	0.05%	20,000	0.04%	0
コロナ関連 ※6	2,743,080	6.29%			2,743,080
合計	43,612,277	100.00%	46,193,975	100.00%	△ 2,581,698
※1 劇場・音楽堂等機能強化推進事業 ※5 鹿野町での開催事業に対し鹿野町文化団体連絡協議会より					
※2 文化芸術地域モデル全国発信事業補助金 ※6 文化庁／日本芸術文化振興会 文化庁令和2年度第二次補正予算事業「文化芸術					
※3 2019年:国際航空便利利用促進費(定期便)(日韓高校生交流 安山) 活動の継続支援事業:150万、文化庁:107,000、鳥取県令和2年度アートの灯を守る!					
※4 2019年:国際芸術交流支援事業 とっとりアート支援事業補助金:946,000、鳥取市観光産業育成支援事業補助金:19万 ほか					

鳥の劇場運営委員会への補助金

◎「鳥の演劇祭13」・「豊岡連携」・表現WS「トリジュク」	
鳥取県「鳥の劇場運営委員会補助金」	35,230,139円
※文化庁「文化芸術創造拠点形成事業」からの補助金を含む	
鳥取市「鳥取市文化芸術事業に関する補助金」	979,413円
文化庁「令和2年度文化芸術活動の継続支援事業補助金」	1,292,000円
◎「じゅう劇場」	
鳥取県「鳥取県障がい者と健常者がともに作る芸術事業補助金」	19,564,019円
※文化庁「文化芸術創造拠点形成事業」からの補助金を含む	

鳥の劇場が無観客公演

無料ライブ配信へ
29日から



鳥の劇場は、鳥の劇場の舞台風景を捉えた写真。舞台上には、鳥の劇場のメンバーが、鳥の劇場の衣装を着て、鳥の劇場の演技を披露している。背景には、鳥の劇場のセットが、鳥の劇場の照明で照らされている。

鳥の劇場が無観客公演

無料ライブ配信へ
29日から

鳥の劇場は、鳥の劇場の舞台風景を捉えた写真。舞台上には、鳥の劇場のメンバーが、鳥の劇場の衣装を着て、鳥の劇場の演技を披露している。背景には、鳥の劇場のセットが、鳥の劇場の照明で照らされている。

日本海新聞 2020年(令和2年)4月26日 日曜日

鳥の劇場が無観客公演

無料ライブ配信へ
29日から



鳥の劇場は、鳥の劇場の舞台風景を捉えた写真。舞台上には、鳥の劇場のメンバーが、鳥の劇場の衣装を着て、鳥の劇場の演技を披露している。背景には、鳥の劇場のセットが、鳥の劇場の照明で照らされている。

鳥の劇場が無観客公演

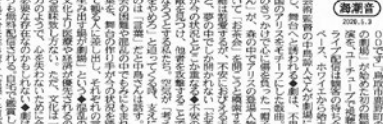
無料ライブ配信へ
29日から

鳥の劇場は、鳥の劇場の舞台風景を捉えた写真。舞台上には、鳥の劇場のメンバーが、鳥の劇場の衣装を着て、鳥の劇場の演技を披露している。背景には、鳥の劇場のセットが、鳥の劇場の照明で照らされている。

日本海新聞 2020年(令和2年)4月30日 木曜日

鳥の劇場が無観客公演

無料ライブ配信へ
29日から



鳥の劇場は、鳥の劇場の舞台風景を捉えた写真。舞台上には、鳥の劇場のメンバーが、鳥の劇場の衣装を着て、鳥の劇場の演技を披露している。背景には、鳥の劇場のセットが、鳥の劇場の照明で照らされている。

鳥の劇場が無観客公演

無料ライブ配信へ
29日から

鳥の劇場は、鳥の劇場の舞台風景を捉えた写真。舞台上には、鳥の劇場のメンバーが、鳥の劇場の衣装を着て、鳥の劇場の演技を披露している。背景には、鳥の劇場のセットが、鳥の劇場の照明で照らされている。

日本海新聞 2020年(令和2年)5月3日 日曜日

言葉で共有する演劇の力

中島諒人さん (54)



中島諒人さんは、鳥の劇場のメンバーで、鳥の劇場の演技を披露している。彼は、鳥の劇場の衣装を着て、鳥の劇場の演技を披露している。背景には、鳥の劇場のセットが、鳥の劇場の照明で照らされている。

言葉で共有する演劇の力

中島諒人さん (54)

中島諒人さんは、鳥の劇場のメンバーで、鳥の劇場の演技を披露している。彼は、鳥の劇場の衣装を着て、鳥の劇場の演技を披露している。背景には、鳥の劇場のセットが、鳥の劇場の照明で照らされている。

朝日新聞 2020年(令和2年)5月19日 火曜日

コロナ時代 アート手探り

ライブ配信 収束後も



ライブ配信の様子。舞台上には、鳥の劇場のメンバーが、鳥の劇場の衣装を着て、鳥の劇場の演技を披露している。背景には、鳥の劇場のセットが、鳥の劇場の照明で照らされている。

コロナ時代 アート手探り

ライブ配信 収束後も

ライブ配信の様子。舞台上には、鳥の劇場のメンバーが、鳥の劇場の衣装を着て、鳥の劇場の演技を披露している。背景には、鳥の劇場のセットが、鳥の劇場の照明で照らされている。

朝日新聞 2020年(令和2年)6月20日 土曜日

芸術復興の灯ともす

豊岡演劇祭 9月開催決定



豊岡演劇祭の様子。舞台上には、鳥の劇場のメンバーが、鳥の劇場の衣装を着て、鳥の劇場の演技を披露している。背景には、鳥の劇場のセットが、鳥の劇場の照明で照らされている。

芸術復興の灯ともす

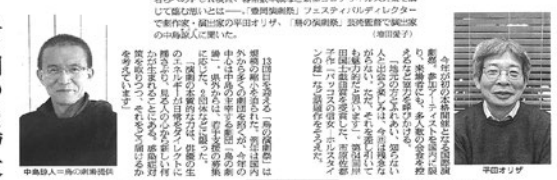
豊岡演劇祭 9月開催決定

豊岡演劇祭の様子。舞台上には、鳥の劇場のメンバーが、鳥の劇場の衣装を着て、鳥の劇場の演技を披露している。背景には、鳥の劇場のセットが、鳥の劇場の照明で照らされている。

日本海新聞 2020年(令和2年)7月4日 土曜日

演劇祭 地方から踏み出そう

文化活動再開めざす健に



演劇祭の様子。舞台上には、鳥の劇場のメンバーが、鳥の劇場の衣装を着て、鳥の劇場の演技を披露している。背景には、鳥の劇場のセットが、鳥の劇場の照明で照らされている。

演劇祭 地方から踏み出そう

文化活動再開めざす健に

演劇祭の様子。舞台上には、鳥の劇場のメンバーが、鳥の劇場の衣装を着て、鳥の劇場の演技を披露している。背景には、鳥の劇場のセットが、鳥の劇場の照明で照らされている。

朝日新聞 2020年(令和2年)9月3日 木曜日

鳥の劇場13

演目発表



鳥の劇場13の演目発表の様子。舞台上には、鳥の劇場のメンバーが、鳥の劇場の衣装を着て、鳥の劇場の演技を披露している。背景には、鳥の劇場のセットが、鳥の劇場の照明で照らされている。

鳥の劇場13

演目発表

鳥の劇場13の演目発表の様子。舞台上には、鳥の劇場のメンバーが、鳥の劇場の衣装を着て、鳥の劇場の演技を披露している。背景には、鳥の劇場のセットが、鳥の劇場の照明で照らされている。

日本海新聞 2020年(令和2年)9月8日 火曜日



日本海新聞 2020年(令和2年)9月4日 金曜日



中国新聞 2020年(令和2年)9月10日 木曜日



読売新聞 2020年(令和2年)9月13日 日曜日



日本海新聞 2020年(令和2年)9月20日 日曜日



日本海新聞 2020年(令和2年)9月13日 日曜日



日本海新聞 2020年(令和2年)9月15日 火曜日



日本海新聞 2020年(令和2年)9月22日 火曜日



日本海新聞 2020年(令和2年)9月5日 土曜日



日本海新聞 2020年(令和2年)9月16日 水曜日



朝日新聞 2020年(令和2年)9月18日 金曜日



日本海新聞 2020年(令和2年)10月16日 金曜日



日本海新聞 2020年(令和2年)10月24日 土曜日



日本海新聞 2020年(令和2年)10月31日 土曜日



日本海新聞 2020年(令和2年) 11月12日 木曜日



日本海新聞 2020年(令和2年)12月3日 木曜日



朝日新聞 2020年(令和2年) 10月24日 土曜日



日本海新聞 2020年(令和2年) 11月6日 金曜日



日本海新聞 2020年(令和2年) 11月23日 月曜日



日経MJ 2020年(令和2年)10月30日 金曜日



日本海新聞 2020年(令和2年)11月10日 火曜日



中国新聞 2020年(令和2年)12月4日 金曜日

倉吉会場「クラシック×演劇」
3作曲家の「芸術音楽」など
コロナ禍の師走に「心のすす払い」を



「TOTTORI LIVE YELL Project」は12月20日午後2時・米子市公会堂で26日午後4時・倉吉市未来中心で27日午後7時・とりぎん文化劇場・宇治は公民館の3回、3作曲家の「芸術音楽」など、コロナ禍の師走に「心のすす払い」を。問い合わせは電話0857 (84) 3268、実行委員会事務局まで。

日本海新聞 2020年(令和2年)12月10日 木曜日

鳥取会場「ジャズ×演劇」
日本の黎明期から現在まで
日南に緑、ミー・アラキさんの生涯も



「TOTTORI LIVE YELL Project」は12月20日午後2時・米子市公会堂で26日午後4時・倉吉市未来中心で27日午後7時・とりぎん文化劇場・宇治は公民館の3回、3作曲家の「芸術音楽」など、コロナ禍の師走に「心のすす払い」を。問い合わせは電話0857 (84) 3268、実行委員会事務局まで。

日本海新聞 2020年(令和2年)12月17日 木曜日

合唱と演劇 見事融合
米子金庫皮切り 聴衆側人を魅了



「TOTTORI LIVE YELL Project」は12月20日午後2時・米子市公会堂で26日午後4時・倉吉市未来中心で27日午後7時・とりぎん文化劇場・宇治は公民館の3回、3作曲家の「芸術音楽」など、コロナ禍の師走に「心のすす払い」を。問い合わせは電話0857 (84) 3268、実行委員会事務局まで。

日本海新聞 2020年(令和2年)12月21日 月曜日

音楽と演劇 共演堪能
倉吉会場「クラシック×演劇」



「TOTTORI LIVE YELL Project」は12月20日午後2時・米子市公会堂で26日午後4時・倉吉市未来中心で27日午後7時・とりぎん文化劇場・宇治は公民館の3回、3作曲家の「芸術音楽」など、コロナ禍の師走に「心のすす払い」を。問い合わせは電話0857 (84) 3268、実行委員会事務局まで。

日本海新聞 2020年(令和2年)12月27日 日曜日

芸術活動にエール
倉吉・鳥取 音楽×演劇 ダイナミックに映像配信も



「TOTTORI LIVE YELL Project」は12月20日午後2時・米子市公会堂で26日午後4時・倉吉市未来中心で27日午後7時・とりぎん文化劇場・宇治は公民館の3回、3作曲家の「芸術音楽」など、コロナ禍の師走に「心のすす払い」を。問い合わせは電話0857 (84) 3268、実行委員会事務局まで。

毎日新聞 2020年(令和2年)12月29日 火曜日

3会場から鳥取ライブエール
ライヴエール
ライヴエール
ライヴエール



「TOTTORI LIVE YELL Project」は12月20日午後2時・米子市公会堂で26日午後4時・倉吉市未来中心で27日午後7時・とりぎん文化劇場・宇治は公民館の3回、3作曲家の「芸術音楽」など、コロナ禍の師走に「心のすす払い」を。問い合わせは電話0857 (84) 3268、実行委員会事務局まで。

日本海新聞2020年(令和2年)12月12日 土曜日

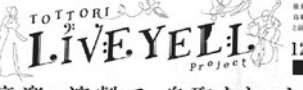
芸術家の思い、元氣届け
音楽と演劇 融合舞台
ライヴエール



「TOTTORI LIVE YELL Project」は12月20日午後2時・米子市公会堂で26日午後4時・倉吉市未来中心で27日午後7時・とりぎん文化劇場・宇治は公民館の3回、3作曲家の「芸術音楽」など、コロナ禍の師走に「心のすす払い」を。問い合わせは電話0857 (84) 3268、実行委員会事務局まで。

日本海新聞 2020年(令和2年)12月17日 木曜日

TOTTORI LIVE YELL Project
音楽×演劇で、鳥取をもっと元気に。もっと笑顔に。



「TOTTORI LIVE YELL Project」は12月20日午後2時・米子市公会堂で26日午後4時・倉吉市未来中心で27日午後7時・とりぎん文化劇場・宇治は公民館の3回、3作曲家の「芸術音楽」など、コロナ禍の師走に「心のすす払い」を。問い合わせは電話0857 (84) 3268、実行委員会事務局まで。

日本海新聞 2020年(令和2年)12月18日 金曜日

日本海新聞2020年(令和2年)12月23日 水曜日

「新結合で活力の再生を」
持続性ある地方



「TOTTORI LIVE YELL Project」は12月20日午後2時・米子市公会堂で26日午後4時・倉吉市未来中心で27日午後7時・とりぎん文化劇場・宇治は公民館の3回、3作曲家の「芸術音楽」など、コロナ禍の師走に「心のすす払い」を。問い合わせは電話0857 (84) 3268、実行委員会事務局まで。

毎日新聞 2021年(令和3年)1月10日 日曜日

コロナとの共存を 芸術文化の新しい地平へ
新春4氏座談会



「TOTTORI LIVE YELL Project」は12月20日午後2時・米子市公会堂で26日午後4時・倉吉市未来中心で27日午後7時・とりぎん文化劇場・宇治は公民館の3回、3作曲家の「芸術音楽」など、コロナ禍の師走に「心のすす払い」を。問い合わせは電話0857 (84) 3268、実行委員会事務局まで。

日本海新聞 2021年(令和3年)1月1日 金曜日

文化芸術の発展へ
座談会—公演を振り返る



「TOTTORI LIVE YELL Project」は12月20日午後2時・米子市公会堂で26日午後4時・倉吉市未来中心で27日午後7時・とりぎん文化劇場・宇治は公民館の3回、3作曲家の「芸術音楽」など、コロナ禍の師走に「心のすす払い」を。問い合わせは電話0857 (84) 3268、実行委員会事務局まで。

日本海新聞 2021年(令和3年)1月22日 金曜日

演劇 リモートに活路
新たな表現の場 貴重



「TOTTORI LIVE YELL Project」は12月20日午後2時・米子市公会堂で26日午後4時・倉吉市未来中心で27日午後7時・とりぎん文化劇場・宇治は公民館の3回、3作曲家の「芸術音楽」など、コロナ禍の師走に「心のすす払い」を。問い合わせは電話0857 (84) 3268、実行委員会事務局まで。

読売新聞 2021年(令和3年)1月23日 土曜日

オンラインで 職業の魅力
米子市立図書館



「TOTTORI LIVE YELL Project」は12月20日午後2時・米子市公会堂で26日午後4時・倉吉市未来中心で27日午後7時・とりぎん文化劇場・宇治は公民館の3回、3作曲家の「芸術音楽」など、コロナ禍の師走に「心のすす払い」を。問い合わせは電話0857 (84) 3268、実行委員会事務局まで。

日本海新聞 2021年(令和3年)1月28日 木曜日

演劇の荒ぶる力
鳥の劇場 戦時中死ななかつたお父さん



「TOTTORI LIVE YELL Project」は12月20日午後2時・米子市公会堂で26日午後4時・倉吉市未来中心で27日午後7時・とりぎん文化劇場・宇治は公民館の3回、3作曲家の「芸術音楽」など、コロナ禍の師走に「心のすす払い」を。問い合わせは電話0857 (84) 3268、実行委員会事務局まで。

日本海新聞 2021年(令和3年)2月11日 木曜日

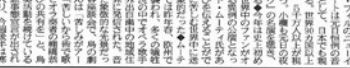
「人とのつながり大切」
鳥の劇場 戦時中死ななかつたお父さん



「TOTTORI LIVE YELL Project」は12月20日午後2時・米子市公会堂で26日午後4時・倉吉市未来中心で27日午後7時・とりぎん文化劇場・宇治は公民館の3回、3作曲家の「芸術音楽」など、コロナ禍の師走に「心のすす払い」を。問い合わせは電話0857 (84) 3268、実行委員会事務局まで。

日本海新聞 2021年(令和3年)3月3日 水曜日

挑む
コロナ時代を 見据えて



「TOTTORI LIVE YELL Project」は12月20日午後2時・米子市公会堂で26日午後4時・倉吉市未来中心で27日午後7時・とりぎん文化劇場・宇治は公民館の3回、3作曲家の「芸術音楽」など、コロナ禍の師走に「心のすす払い」を。問い合わせは電話0857 (84) 3268、実行委員会事務局まで。

日本海新聞 2021年(令和3年)1月5日 火曜日

芸術をもっと気軽に楽しく
中島 諒人代表理事



「TOTTORI LIVE YELL Project」は12月20日午後2時・米子市公会堂で26日午後4時・倉吉市未来中心で27日午後7時・とりぎん文化劇場・宇治は公民館の3回、3作曲家の「芸術音楽」など、コロナ禍の師走に「心のすす払い」を。問い合わせは電話0857 (84) 3268、実行委員会事務局まで。

山陰中央新報 2021年(令和3年)1月13日 水曜日

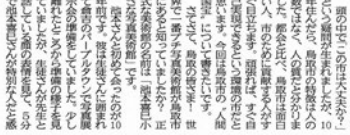
「心の元氣保つ場に」
地方から芸術文化発信



「TOTTORI LIVE YELL Project」は12月20日午後2時・米子市公会堂で26日午後4時・倉吉市未来中心で27日午後7時・とりぎん文化劇場・宇治は公民館の3回、3作曲家の「芸術音楽」など、コロナ禍の師走に「心のすす払い」を。問い合わせは電話0857 (84) 3268、実行委員会事務局まで。

日本海新聞 2021年(令和3年)1月31日 日曜日

鳥取の2人の天才について



「TOTTORI LIVE YELL Project」は12月20日午後2時・米子市公会堂で26日午後4時・倉吉市未来中心で27日午後7時・とりぎん文化劇場・宇治は公民館の3回、3作曲家の「芸術音楽」など、コロナ禍の師走に「心のすす払い」を。問い合わせは電話0857 (84) 3268、実行委員会事務局まで。

日本海新聞 2021年(令和3年)3月18日 木曜日

